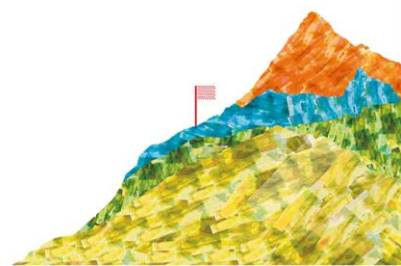


令和6年度
事業報告書
エリア毎

社会福祉法人 こうほうえん

鳥取県境港市誠道町 2083 番地



令和6年度事業報告書（さかいエリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

- 1) 令和6年度においては、全介護保険事業所の黒字化（若しくは、赤字額の大幅縮減）を目標とし、上期エリア戦略会議で、さかい老健、訪問介護＋定期巡回、デイハウスわたり、デイハウスせいどうの4事業所を対象に経営体質の改善を図る旨報告した。令和6年度のさかいエリアの経常増減差額の伸びは、この4事業所の飛躍が大きく貢献する形となった。
- 2) 特養待機者の減少による1．2群制度の見直しに着手した。例えば、待機者が100人を超える状況下において、総数を基準により精査することは労力が大きくなることから、1．2群に大別し1群のみ精査してきたが、総数の減少に合わせより柔軟に対応できるよう、常に上位50人を精査する仕組みとした。介護において大きな社会資源である特養サービスが、今後とも公平・公正にかつ速やかに提供できるよう努めていく。
- 3) ご利用者に快適な環境の提供と職員の疲弊防止対策を継続実施している。境港市の介護市場を見ると、在宅の軽度認定の90歳以上の高齢者の増加が伺われる。今後更に入浴需要が増すことを想定し、猛暑が続く近年の入浴環境、職員の労働環境の改善を図ることを目的に、空調の改善に先行的に着手した。今後とも、ご利用者の事業所内環境の快適性の追求、職員の健康維持の観点から、一歩先を見た整備を行っていく。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) 「眠りSCAN」を導入し利用者の見守り支援
マットレスの下に体動センサー（寝返り、呼吸、心拍などを検出）を敷くことにより、端末上でご利用者の覚醒、起き上がり、離床などの状態変化をリアルタイムでモニタリングできるようになり、ご利用者の状態に合わせたケア・見守りが可能になるとともに、スタッフの業務効率化にも繋がっています。
- 2) 地域活動への参加
光祐寺 みそなめ地蔵祭や各種イベントにこうほうえん大漁太鼓として多数参加。自治会や地域の皆様へ「こうほうえん」をアピールする機会となりました。
- 3) 「子ども食堂」開催
市民図書館と連携し、子どもの居場所づくり、孤食、低栄養問題の改善と、図書に親しむ機会を増やし、子どもの心身の成長を促す活動を官民一体で行います。
令和6年度実績 参加人数：児童延べ68名 保護者35名 職員投入人員30名

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 1) エリア全体でITC機器導入に伴う工事がスタート。データ連携システムはケアプランセンターならびに各事業所で運用実施し、在宅とケアプランセンター間ではICT活用によりペーパーレス化に取り組んだ。各事業所で計画的にユマニチュード入門等をもとにした認知症ケアの充実に取り組んでいる。
- 2) 資格研修はエリアで狙いを持った人選を実施。グループディスカッションは各事業所で計画

的に取り組んでいる。1 級職員や新規役職者を中心に、研修講師を担う機会を作った。

- 3) インスタグラムや HP で情報発信を開始。4 月よりみなとテラスにて図書館と連携し、毎月 1 回子ども食堂を開始。スポーツでは「こうほうえん卓球部」を結成し、地区の大会で優勝。ボランティアの受け入れ再開（バンド演奏・傾聴ボラ・紙芝居・保育園との苗植えなど）

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第 1 位）

事業所名	定員(人)	令和 6 年度(%)	令和 5 年度(%)	令和 4 年度(%)
特養さかい	90	97.5	97.7	97.8
特養新さかい	64	94.7	98.5	98.6
特養みなと	29	91.1	96.5	99.1
老健さかい	50	94.1	90.0	90.6
ケアハウス	50	92.3	90.8	89.6
生活支援ハウス	20	85.8	79.1	86.2
グループホームみなと	9	95.3	96.3	97.4
グループホームひので	18	97.3	98.5	98.7
グループホームあがりみち	18	97.3	99.2	97.8
デイハウスあがりみち	29	77.3	68	90
デイハウスせいどう	29	86.2	71.4	89.7
デイハウスわたり	29	85.0	81.3	83.9

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	○認知症予防自主サークル森岡元気になるための会（6 月 1 月）○ 上道地区合同納涼祭（8 月） ○公民館祭り（10 月） ○ 鳥取介護フェア（11 月） ○餅つき年末行事（12 月）
BCP 等訓練実施状況	○上道地区合同防災訓練 避難 炊き出し（6 月） ○幸神町との 防災訓練（10 月） ○BCP 机上訓練（3 月）
エリア内研修状況	○褥瘡予防 ○感染症（食中毒） ○身体拘束適正化・虐待予防（ア ンガーマネジメント初級編） ○認知症ケア ○リスクマネジメン ト（キャプション評価） ○感染症（標準予防策） ○看取りケア ○介護保険 ○身体拘束適正化・虐待予防 ○コンプライアンス ○睡眠とメンタルヘルス ○急変時の対応 ○救命救急 ○摂食・ 嚥下 ○口腔ケア ○アクティビティー ○BCP ○リーダーのた めのコーチング
エリア内会議、委員会 活動	【月例】 ○エリア調整会議 ○部門会議 ○在宅会議 ○看護師会 ○主 任会 ○栄養士会 ○衛生委員会 ○リスクマネジメント ○内部 監査委員会 ○感染および褥瘡予防対策委員会 ○身体拘束適正

	化・虐待予防委員会 ○虐待防止委員会（招集時） ○ノーリフ ティング推進委員会 ○研修委員会 ○リーダー会○安全対策委員 会 ○基本ケア委員会 ○ケアプラン委員会 ○事務連絡会 【定例】 ○ふれあいの橋の会 ○運営推進会議 ○福祉サービス苦情解決第三者委員会
委員会活動等の 成果・実績・反省	【主任会】 成果 実績： ・エリア内研修計画の策定・運営：法定研修を中心に実施。 ・BCP・防災関連研修：外部講師を招き、防災意識向上を図ることに成功。 ・e ラーニングの導入：7月より配信を開始し、効率的な研修参加の仕組みを構築。集合研修の参加者：384名、e ラーニングの参加者：60名（参加人数 15.6%向上） ・次世代育成：現場職員を研修講師に選任、研修実施に繋げた。 反省： ・e ラーニングのさらなる活用：研修参加率向上のため、メール通知だけでなく事業所内での呼びかけを実施や動画視聴の時間を設けるなどの工夫が必要。 ・研修講師の負担軽減：指導職以上に固定されている講師を見直し、現場職員から後任を育成し、次世代育成を強化。 【ICT 委員会】 24年度は多くの ICT 機器の導入と生産性向上推進体制加算の取得があり、委員会としては毎月、使用状況や困っていること等の確認を行い、委員会内で共有し、解決できないことを法人の員会で確認できました。加算についても対象のすべての事業所が取得することができた。

6 人財状況

外部研修等講師 派遣実績	○境港市立第一中学校「総合学習 探究学習」 ○境港市立第一・二・三中学校「介護職理解促進事業」 ○境港総合技術高等学校「ケアコンテスト」
外部役職就任状況	○境港市介護保険運営協議会委員・・・浜田 壮 ○境港市社会福祉協議会理事・・・浜田 壮 ○境港総合技術高等学校学校運営協議会委員・・・浜田 壮 ○境港市養護老人ホーム入所判定委員会委員・・・渡部信之 ○鳥取県歯科衛生士会副会長・・・香川由美 ○鳥取県西部歯科衛生士会会長・・・香川由美 ○鳥取県歯科衛生士連盟会長・・・香川由美

外部表彰受賞状況	実績なし
----------	------

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 <u>延人数 310人</u>	○県立境港総合技術高等学校「介護実習」 ○鳥取市医療看護専門学校「リハビリ臨床実習」 ○YMCA 米子医療福祉専門学校「リハビリ臨床実習」 ○米子医療センター附属看護学校「臨床」実習
ボランティア受け入れ実績 <u>延人数 163人</u>	○角バンド「昭和歌謡曲の演奏」 ○境港総合技術高等学校「納涼祭」・「夏祭り」等 補助 ○境公民館長「習字」 ○読み聞かせ、傾聴ボランティア
見学受け入れ実績 <u>実人数 7人</u>	○島根リハビリテーション学院 ○入居申込ご家族
地域交流活動実績1 <u>実施回数 2回</u> <u>実人数123人</u> <u>延人数123人</u>	（事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業） ○航空自衛隊美保基地隊員「餅つき大会」 ○家族会「総会&ドキュメンタリー映画」
地域交流活動実績2 <u>実施回数 2回</u> <u>実人数540人</u> <u>延人数540人</u>	（地域の交流事業に利用者と共に参加したもの） ○境港市ことぶきクラブ連合会「演芸発表会」 ○上道地区交流納涼祭
ボランティア・環境活動等の実参加者数	（ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数） 53人 / エリア職員数 ○上道地区ソフトバレー大会 ○馬場崎町 光祐寺 みそなめ祭 （以下 大漁太鼓） ○アザレア開苑セレモニー ○よなご幸朋苑 夏祭り ○なんぶ幸朋苑 秋祭り ○DHせいどう秋祭り ○誠道公民館まつり ○上道公民館まつり
ボランティア・環境活動参加実績1 <u>投入実人数30人</u>	（清掃活動・消防団活動・地域防災活動等） ○上道校区一斉清掃 ○誠道地区一斉清掃 ○幸神町防災訓練

ボランティア・環境 活動参加実績 2 <u>投入実人数 18人</u>	(見守り活動・学校活動の手伝い等) ○境港第一中学校 総合学習 現場体験事前学習 ○介護職理解促進事業 ○ケアコンテスト ○職場説明会(大人トーク) ○境港総合高校福祉科での社会人講師
地域発信活動実績 (介護、看護の日、 イベント開催等)	実績なし
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成 講座、地域包括支援セン ターのみの活動は除く)	回数、養成者数、資格者投入人数は、必ず記入してください。 実績なし
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催 及び参加等、地域包括支 援センターのみの活動は 除く)	実績なし

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	26
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル5	事故が死因となった場合	0
虐待及び身体拘束の 状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) 高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ 通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状 況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) R6 5/29 6/10 GH みなと 職員7名 利用者8名 R6 6/21 6/25 新さかい特養 職員4名 利用者9名 R6 12/22 12/27 さかい老健 職員8名 利用者11名 R7 1/24 2/6 さかい特養 職員14名 利用者15名 R7 1/24 1/29 DH わたり 職員6名 利用者5名 R7 2/14 2/24 さかいDC 職員6名 利用者5名		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	0 件	6 件	5 件

令和6年度事業報告書（よなご エリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

1. 業務継続計画（BCP）義務化に伴う訓練、研修の実施を各事業所にて実施。作成した計画をもとに行った訓練にて、具体的な災害時の施設内の行動指針の見直し、地域との連携強化も今後の課題としてあげられる。
2. 特養、特定施設、小規模多機能施設、グループホームへ見守り機器、インカム、記録端末機器導入によるサービスの質の向上、業務の効率化に取り組む。見守り機器、インカムについては導入初期段階のため効果の測定は今後。記録端末導入については、重複記録の削減、家族連絡表への活用、訪問時の事業所外での記録、予定表確認などで効果を実感。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

1) ICT 導入による介護現場の業務改善実証事業

アザレアコートこうほうえんでは、厚労省委託事業により三菱総合研究所と連携し、ICT 機器を活用した介護現場の業務改善に取り組む。見守り機器やインカムを導入し、また、スマートウォッチで職員のストレスや歩数を可視化。夜勤時の歩数や疲労が軽減、ご利用者の睡眠の質も向上。92%の職員が健康意識の向上を実感。

2) 後藤ヶ丘、加茂地域包括支援センター

令和7年7月1日から担当圏域変更に伴い『米子市後藤ヶ丘・加茂地域包括支援センター』に名称変更。従来の圏域に義方地区が加わり人口3万5000人弱、高齢化率29%超のエリアを担当。15名に職員を増員して対応する。

3) 住まい環境整備モデル事業

在宅介護等の紙オムツごみ地域回収からはじまる多世代参加型地域コミュニティ形成事業。代表提案者は株式会社 LIXIL。共同提案者として社会福祉法人こうほうえんが参加。よなごエリア5事業所で実証に参画。（実証検証期間：令和5年11月13日から26日）

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 1) 当たり前と思う基本サービス実践において、ユマニチュードについて理解を深めるため、全事業所グループ学習（抄読会）を実施した。抄読会前後のアンケートにおいては実施前より理解や関心が深まった結果がみられた。今後も継続し取り組んでいく。
- 2) 入居系施設を中心に見守り機器、インカム等の ICT 機器を新たに導入し、生産性向上に向けた取り組みを開始した。
- 3) 職員健診率向上を呼び掛けたが、受診率 6.2%に留まった。健康で元気に働けるよう今後も呼びかけを行っていく。
- 4) 地域貢献については各事業所より積極的に地域に出向い講習会（延べ74名参加）など行った。新たな取り組みとして3事業所が Instagram 運用開始。1事業所が施設内案内のストリートビューを開始した。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第1位）

事業所名	定員(人)	令和6年度(%)	令和5年度(%)	令和4年度(%)
よなご特養	74	98.2	97.7	97.8
よなごショートステイ	10	92.8	98.5	98.6
きんかい特養	30	97.4	96.5	99.1
きんかいショートステイ	6	88.4	90.0	90.6
ケアハウス	60	98.6	90.8	89.6
グループホームかみごとう	27	98.0	79.1	86.2
グループホームはたがさき	18	99.3	96.3	97.4
アザレア特定	40	93.5	98.5	98.7
アザレア賃貸	112 室	94.0	99.2	97.8
生活支援ハウス	20	89.9	68	90
デイハウスよねはら	25	91.6	71.4	89.7

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	○長寿を祝う集い ○米川沿い清掃 ○骨密度測定会 ○ピアノとフルートコンサート ○入居者懇談会 ○クリスマス会 ○もちつき ○秋祭り
BCP 等訓練実施状況	感染症 BCP・自然災害 BCP 全事業所で作成済み BCP 訓練（自然災害、感染症 2 回/年）実施済
エリア内研修状況	○エルダー・新人発表会 ○安全衛生 ○食中毒 ○認知症 ○法令順守 ○事故発生・緊急時の対応 ○身体拘束と虐待 ○感染症 ○リスクマネジメント ○ユニットケア ○看取り ○介護基準(排泄・リスク・褥瘡・骨折と表皮剥離) ○高齢者の健康管理と疾患 ○コミュニケーション技法 ○接遇について ○災害BCP ○感染症BCP
エリア内会議、委員会活動	○苦情解決第三者委員 ○ふれあいの橋の会 ○エリア内調整会 ○地域で一緒に暮らそう会 ○虐待防止委員会 ○リスクマネジメント委員会 ○看護師会 ○安全衛生委員会 ○ノーリフティング推進委員会 ○法人研究発表会 優秀賞 遠藤芙希子
委員会活動等の成果・実績・反省	○リスクマネジメント：エリア調整会議で骨折・服薬関連・ご意見・車両事故報告を共有。エリアリスク委員会では報告書の原因分析・再発防止策について検討。また法人リスク委員会で作成した服薬マニュアルの動画を全事業所で周知するよう発信し、配薬時の声出し・指さし確認の定着化に向け呼びかけた。重大事故が発生した場合は速やかな水平展開により同一事故の予防に努めた。

	○ノーリフティング推進： 基準書に沿って手技チェックを行う。また福祉用具に係る事故の周知を行い再発防止に努めた。 ○看護師会： 包括的ケアの取り組みとしてろうあ仲間サロン会にてまちの保健室を実施。服薬事故の予防を目標に掲げ取り組むも事故件数の減少に結びつかず。リスク委員と連携し、誤薬時の原因分析と検証を実施していく。感染症への引き続き対応のため BCP の見直し、研修会の開催を実施。
--	--

6 人財状況

外部研修等講師 派遣実績	○鳥取大学医学部保健学科老年看護学：高岡久雄 ○YMCA 米子医療福祉専門学校： 豊田慶子、野口紗代、遠藤芙希子 ○介護福祉士実務者研修講師：22 名 ○介護実習科講師：10 名 ○福祉職員キャリアパス対応生涯研修：豊田慶子・福井幸枝 ○鳥取県母子寡婦福祉連合会 家庭生活支援員： 講師：長谷川めぐみ ○ケアマネ協講師：上田紀行 ○DWA T フォローアップ講師：上田紀行 ○北高看護学科講師：安達 淳 ○安倍、河崎、御建、芝谷、加茂、等のサロンにて介護予防体操講師：炭山理恵
外部役職就任状況	○鳥取大学医学部臨床准教授：高岡久雄 ○鳥取大学医学部臨床講師：野坂美保 ○鳥取看護大学臨地実習指導講師：堀田幸恵、藤岡麻美 ○介護認定審査会審査委員： 戸田悦子、上田紀行、野坂美保 坂本佳津子 ○介護福祉士実務者研修教務主任：野坂美保 ○鳥取県リハビリテーション専門職連絡協議会（POST） 介護福祉士会代議員：野坂美保 ○鳥取県災害派遣福祉チーム登録者：本庄研・御古達也・吉本祥太・上田紀行・平野敦
外部表彰受賞状況	○鳥取県社会福祉協議会会長表彰：足立哲美・万波美奈江・池信喜美子・千代延由美・岩田千恵子・ ○米子市社会福祉協議会会長表彰：森廣宜之・枝谷夕紀・斉鹿由美子・

	三島美保・山崎絵梨奈 ○米子商工会議所優良従業員表彰：安達淳・山根かおり ○第 18 回鳥取県福祉研究学会 奨励賞 中島美由紀
--	--

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 <u>延人数 558 人</u>	介護初任者研修科（実習コース）鳥取大学地域医療体験実習 実務者研修 大阪健康福祉短大 ユニットリーダー実地研修 YMCA 医療福祉専門学校 介護福祉科 1.2 年生 境港総合技術高等学校 美作大学 米子北高衛生看護科 鳥取看護大学 鳥取大学医学部保健学科 鳥取短期大学 社会福祉専門学校 鳥取環境大学 経営学部
ボランティア受け入れ実績 <u>延人数 170 人</u>	個人（行事補助、楽器演奏、生け花教室、環境整備、体操指導、傾聴、ダンス披露） こうほうえん職員大漁太鼓 県社協ボランティア体験事業（米子西高、米子南高、境高校）鳥取大学混声合唱部スプラウト
見学受け入れ実績 <u>実人数 305 人</u>	入居申込 東京本部見学 河崎地区民生委員 中国天易養老 労災病院地域医療支援スタッフ 就将地区民生児童委員 社会福祉法人あしーど 西部しゅーと 中国四川省からの見学 社会福祉法人西益田福祉会 米子市福米西公民館女性部 福祉事業所バスツアー
地域交流活動実績 1 <u>実施回数 1 回</u> <u>実人数 20 人</u> <u>延人数 25 人</u>	（事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業） 餅つき（よねはら事業所）
地域交流活動実績 2 <u>実施回数 0 回</u> <u>実人数 0 人</u> <u>延人数 0 人</u>	（地域の交流事業に利用者と共に参加したもの） 実績なし
ボランティア・環境活動等の実参加者数	（ボランティア・環境活動等に 1 回でも参加した職員数） 47 人 / エリア職員数
ボランティア・環境活動参加実績 1 <u>投入実人数 47 人</u>	（清掃活動・消防団活動・地域防災活動等） 三柳北区公園清掃 米原 3 区清掃 中海アダプト 全日本トライアスロン皆生大会 三柳北自治会夏祭り 住吉公民館 納涼祭祭り 上一地区除草作業 米川沿い清掃
ボランティア・環境活動参加実績 0 <u>投入実人数 0 人</u>	（見守り活動・学校活動の手伝い等） 実績なし

地域発信活動実績（介護、看護の日、イベント開催等）	実績なし
地域発信活動実績 （認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く）	実績なし
地域発信活動実績（講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く）	実績なし

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	19
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル5	事故が死因となった場合	0
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) 高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況 (保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) 特定施設アザレアコート 12月16日発生 1月3日収束 保健所報告 12月20日 介護老人福祉施設きんかい幸朋苑 2月8日発生 2月20日収束 保健所報告 2月14日		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	0 件	18 件	0 件

令和6年度事業報告書（なんぶ エリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

- 1) 令和6年度は、外部との交流事業やボランティア等の受け入れが回復し、事業運営においてはコロナ前の状態に戻ったが介護職員人財の確保は難しくなった。そのため今年度も3名のグローバル人財を採用し早期戦力化に努めた。更に人財不足を補い、業務の効率化を進めるために昨年度導入したICTの活用、普及に努めた。今後はSNSでの情報発信を図っていく。

2) 地域貢献事業の推進

10月に地域公益事業として「みんなの居場所あいRIN」をスタートさせた。不登校児等の学習支援、地域食堂、居場所の提供、各種相談など短期間で地域に馴染み活況を呈しているが、放課後保育などによる事業費の捻出が今後の課題。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) ショートステイ事業の需要の減少や利用者の遠隔化に伴い、16床の特養ショートのうち7床をユニット型特養に転換することとし、指定権者等の行政機関と交渉を重ね、令和7年6月から事業開始することとなった。
- 2) 市内で最も高齢化が進んでいるなんぶエリアでは、米子市フレイル予防事業（チェック事業・予防教室）を推進した。尚徳中学校地区を対象に、米子市と鳥取大学医学部の研究事業（フレイル予防巡回検診）など各事業に職員派遣を行っている。数年来住民とともにフレイル予防に取り組んできたこともあり、介護等認定率は市内で最も低く、モデル地域として予防事業を推進した。

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 1) 新規受け入れや待機者等については、各事業所相談員へ随時確認を取りながら共有を図った。困難事例に対しても、対象者の状況に応じて、病院や民生委員などの地域組織と連携を図るなど支援ネットワークの構築を図った。
- 2) 在宅会議で各事業所の現状を把握し、課題解決に全体で取り組む体制作りに取り組んだ。
- 3) BCPの計画内容の見直しを年3回行った。水害対策についても、実際の垂直避難を初めて行った。今後も継続することとしている。
- 4) 健康講座を施設医師にて実施、管理栄養士による食事指導、フレイル予防の研修の実施、中防災のサポート事業活用で職場環境の整え方を学び実践した。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第1位）

事業所名	定員(人)	令和6年度(%)	令和5年度(%)	令和4年度(%)
介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑	80	96.2	97.7	98.6
ユニット型介護老人福祉施設なんぶ幸朋苑	24	95.0	95.6	96.3
介護老人保健施設なんぶ幸朋苑	36	90.8	91.8	88.4
ユニット型介護老人保健施設なんぶ幸朋苑	44	82.9	84.5	80.4
グループホームなるみ	27	99.4	99.4	99.4
ケアハウス	50	97.5	75.2	91.4
デイハウスごせんごく	29	66.9	74.9	76.7
デイハウスながえ	16	42.5	39.6	98.3
デイハウスくずも	25	79.7	97.3	96.3

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	○供養会 ○開苑秋祭り ○長寿を祝う集い ○餅つき ○除草作業 ○除草作業 ○開苑祭（なるみ） ○さくら保育園とさつま芋づくり交流2回（なるみ） ○年忘れ会（なるみ）○長寿を祝う会（なるみ） ○花火大会（老健）○クリスマス会（老健）○秋祭り（くずも）
BCP等訓練実施状況	○火災避難訓練（月日：日中想定、3月日：夜間想定） なんぶ（7月30日：日中想定、1月22日：夜間想定） なるみ（8月20日：日中想定、12月13日：夜間想定） ごせんごく（6月18日：日中想定、12月25日：日中想定） ながえ（10月26日：日中想定、2月27日：日中想定） いしい（7月26日：日中想定、12月11日：日中想定） くずも（7月29日：夜間想定、1月27日：日中想定） ○水防避難訓練（6月25日） なんぶ、GHなるみ、DSいしい合同訓練 なるみ、いしいなんぶに避難 なんぶ1階利用者2階へ垂直避難実施 ごせんごく・ながえ（3月26日） くずも（6月21日） ○自然災害、感染症BCPの確認 見直し・更新：なんぶエリア内（7月・10月・12月） 机上訓練：各事業所3月実施 エリア内教育：2月18日「BCP研修」

エリア内研修状況	○新人研修 ○エルダー発表 ○排泄 ○リスク（剥離 骨折） ○健康講座○リスク（服薬） ○救急法 ○看取り ○食事 ○認知症 ○安全衛生管理 ○姿勢・褥瘡 ○身体拘束・虐待 ○感染症 ○法令遵守 ○接遇 ○労働災害 ○口腔ケア ○ノーリフティング○キャリアパス研修（中堅）○BCP ○防災 エリア内研修：20 回実施 実施率 91% 基礎研修：10 回 参加者延べ人数：72 名 月例研修：10 回 参加者延べ人数：175 名
エリア内会議、委員会活動	○なんぶ幸朋苑エリア内調整会議 ○衛生委員会 ○職員会議 ○ISO 委員会 ○リスク委員会 ○ICT・DX 委員会 ○ケアプラン委員会 ○食事検討委員会 ○研修委員会 ○排泄検討委員会 ○地域交流委員会 ○褥瘡予防 ○感染予防対策委員会 ○なんぶ幸朋苑エリア看護師会 ○リーダー会 ○チーム会 ○在宅会議 ○ノーリフティング委員会 ○ケアカンファレンス会議（随時） ○苦情解決第三者委員会 ○ふれあいの橋の会 ○身体拘束等適正化委員会
委員会活動等の成果・実績・反省	○リスク委員会：ヒヤリ・事故についての検討（毎月）、エリアリスク委員を中心にエリア内の 3 レベル事故、服薬関連事故、ご意見報告について要因分析、再発防止策の有効性について検討を行う。施設での下剤関連の事故は継続するが、人間違いの誤薬は減少するも、0 件に名至らず。3 レベル事故について、特養、老健、GH 等の自立のご利用者の骨折事故が多い。適切な福祉用具の選定や安全に移動できる環境整備をしていくことが必要。また、介助中の事故も発生。ねじれや負荷のかかる動き時には部位の動かし方には注意が必要。ご意見は利用者・家族との思いの乖離による意見もあり、日ごろからのコミュニケーションも必要。車両事故の報告もあり、安全運転講習など定期的な開催が必要。 ○地域交流委員会：新型コロナ 5 類移行によりボランティア活動再開。新規ボランティア受け入れ 3 件。楽器演奏ボランティアを中心に動画撮影を行い委員会内で共有。イメージがしやすく、他事業所での展開につながる。職員の地域貢献活動として春・秋のなんぶエリアクリーン活動（施設内外、加茂川周辺の清掃作業）に取り組んだ。職員、家族以外にも地元自治会の方の参加も見られた。皆生トライアスロンへも職員の積極的なボランティア参加が見られた。課題としては、ボランティア一覧を整備し、スムーズな連絡体制の構築を図る。

	○看護師会：毎月各部署の感染症/褥瘡/薬関連事案を共有し対策を水平展開した。コロナ/インフルエンザ流行もあり蔓延要因や予防対策を共有した。感染対策としては、手洗いチェッカーの自己評価を集計しフィードバック、部署毎に職員の意識付けに活用した。また、11月は「感染ラウンド」を実施し感染対策の整備は整っている状況を確認した。月例研修/基礎研修で「嘔吐物処理手順」「感染症について」「看取り」の講師を務めた。次年度の講師は決定済みである。誤薬防止に関して前年度比20%減（16件）を目標としたが今年度23件の誤薬発生あり目標達成に至らなかった。「現場ラウンド」を実施したが効果には繋がっていない。各自の意識向上を目指した取り組みが必要である為、事業所に即した取り組みの検討も必要。
--	--

6 人財状況

外部研修等講師 派遣実績	○家庭生活支援員養成研修（酒井久美） ○介護の入門的研修（徳岡久美子） ○あいサポート研修・小学校2校（徳岡久美子） ○県立米子高等学校2・3年生（冨永達也）
外部役職就任状況	○鳥取県小規模多機能型居宅介護事業所連絡会会長：佐藤裕輔 ○日本神経理学療法学会学術大会 査読員：原大樹 ○鳥取県理学療法士会 スポーツ支援部 部員：宮崎大地 ○山陰言語聴覚士協会 企画部 部長：執行誠二郎 ○山陰言語聴覚士協会 監事：足立朋哉 ○山陰言語聴覚士協会 新人研修部 部長：足立朋哉 ○山陰言語聴覚士協会 例会部 副部長：足立朋哉 ○学校法人藤田学院評議委員：徳岡久美子 ○鳥取福祉のまちづくり推進協議会委員：徳岡久美子 ○介護福祉士会理事：徳岡久美子 鳥取大学医学部臨床教授：武良恵美子 鳥取看護大学臨地実習指導講師：武良恵美子 鳥取県西部地区心不全地域連携パス推進委員会役員：武良恵美子 西部在宅ケア研究会世話人：武良恵美子 ○鳥取県社会福祉協議会えんくるり事業企画委員：中村泰丈 ○鳥取県立米子高等学校学校運営協議会委員：中村泰丈

外部表彰受賞状況	○鳥取県知事表彰（功労者賞） 老健 宇田川瞳 課長 ○鳥取県社会福祉協議会会長表彰 金田千江美 浜田智美 細田久美子 吉岡彰子 ○米子市社会福祉協議会会長表彰 福間麗子 石橋 篤 久保倫子 藤原修平 遠藤智徳 三浦進也 藤田清江 森下美由紀 ○米子商工会議所優良従業員表彰 藤本敬子 大西さつき ○独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長努力賞 優秀勤労障害者 名島 瑛志
----------	---

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 延人数 89人	○米子医療センター付属看護学校2年生（10名） ○YMCA 米子医療福祉専門学校 介護福祉科1年生（2名）・介護福祉科2年生（4名） 理学療法士科3年生（5名）4年生（40名） ○鳥取市医療看護専門学校理学療法士学科1年生（5名） ○川崎医療福祉大学作業療法学科3年生（5名） ○R6年度実務者研修（4名） ○鳥取県社協（1名）○美作大学食物栄養科3年生（1名） ○松江総合医療専門学校2年生（5名） ○宝塚医療大学社会福祉士養成課程（3名） ○県立米子北高等学校看護科3年生（32名） ○鳥取大学医学部保健学科3年生（36名） ○鳥取大学医学部保健学科4年生・統合実習（2名） ○鳥取看護大学4年生（8名） ○鳥取大学医学部付属病院 T-HOC（在宅医療推進のための看護師育成プログラム）（13名）
ボランティア受け入れ 実績 延人数197人	○コール大山（五千五区公民館合唱団）○スプラウト（鳥大医学部混成合唱団）○いしい 毎週月曜日軽作業/紙芝居 延べ数49人 ○まちなかウクレレ音楽チーム（くずも、なるみ） ○ひょっとこ踊り（ごせんごく友の会） ○フラワーアレンジメント（花秀）○生け花 ○支え合いカフェ補助 ○サックス ○米子高校（UTA 同好会） ○ウクレレ（まちなかウクレレ音楽チーム）

	○音読・紙芝居・傾聴・軽作業・子供の見守り等 ○フルート演奏 ○支え合いカフェ（石井・永江）ボランティア ○みんなの居場所あいR I N（居場所・地域食堂・倶楽部活動）ボランティア
見学受け入れ実績 実人数 <u>〇〇〇人</u>	実績なし
地域交流活動実績 1 実施回数 <u>7回</u> 実人数 <u>125人</u> 延人数 <u>125人</u>	（事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業） ○さくら保育園との交流年2回（なるみ）園児20名/1回 ○いしい交流広場 年3回（7月28人 11月11人 3月28人） ○いしい家族会 年2回（10月22日/6人 2月21日/12人）
地域交流活動実績 2 実施回数 <u>16回</u> 実人数 <u>24人</u> 延人数 <u>96人</u>	（地域の交流事業に利用者と共に参加したもの） ○永江公民館祭（1回/人数11人） ○支え愛カフェ（1回/人数2人） ○永江サロン（12回参加/実人数7人/延べ人数約72人） ○車尾公民館祭（くずも1回/2人） ○成実公民館祭（いしい1回/人数2人）
ボランティア・環境活動等の実参加者数	（ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数） 70人 / エリア職員数
ボランティア・環境活動参加実績 1 投入実人数 <u>137人</u>	（清掃活動・消防団活動・地域防災活動等） 日野川一斉清掃（くずも2人） ○なんぶ幸朋苑クリーン活動 5月：67名 10月：44名 ○溝清掃：15名 ○中海アダプトプログラム：9名 ○成実消防団
ボランティア・環境活動参加実績 2 投入実人数 <u>72人</u>	（見守り活動・学校活動の手伝い等） ながえ県営団地見守り活動（12回実施/実人数6人）
地域発信活動実績（介護、看護の日、イベント開催等）	実績なし
地域発信活動実績 （認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く）	回数、養成者数、資格者投入人数は、必ず記入してください。 実績なし
地域発信活動実績（講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く）	実績なし

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	18
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル5	事故が死因となった場合	0
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載)		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	件	21 件	件

令和6年度事業報告書（いなばエリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

1) 収支・人員状況

昨年来実施してきた事業収支改善対策の効果により、売上、経常増減差額ともに向上する一方、依然、他エリアに比して利益率に改善の余地がある。また、人員不足が顕著になり、新規事業を除いて職員数は対前年 10 名減少。事業統廃合も選択肢に入れた効果的な事業再構築が求められている。

2) オールいなば体制の構築

効率的な事業運営に向け、3 年前に実施した通所事業再編の効果検証、職員の柔軟なヘルプ体制の構築、ICT 機器導入効果測定事業への参画等、生産性向上に向けた検討を実施。併せて、委員会、役職者の役割分担の見直し、各指標の見える化等、エリア一致体制の構築を図ってきた。

3) 地域との関係再構築

コロナ禍で停滞していた各種イベント、地域活動の再開に加え、地域との関係再構築を図るため地域包括支援センターに地域担当を配置。住民の高齢化、自治会加入率の低下、担い手不足など地域関係が希薄化するなか、複雑化する地域課題に対応する体制を地域包括支援センター、鳥取市、鳥取市社会福祉協議会と共に検討中。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

1) 相談室の再編

・相談受付から利用開始に至る流れを円滑にするため、各施設相談員で構成される相談室を再編。全事業利用者の情報集約、サービス間調整、医療機関や他法人との連携を図る。

2) ことばとこころの支援室にしまち開設：

・にしまち診療所悠々で「ことばの発達支援センター」として実施していた診療を、2025 年 1 月 14 日障がい福祉サービス事業（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）として独立して開設

3) 地域活動の再開

・中ノ郷中学校学習支援（令和 5 年 11 月 5 日～再開）

令和 5 年度のアンケート結果（全員が満足 or 非常に満足）を受けて、年間を通じて実施

・鳥取市総合防災訓練（鳥取市と鳥取赤十字病院との合同訓練）に鳥取県 DWAT として参加

・敬老会、秋祭りでの保育園等交流再開。ビアガーデン再開。町内祭りへ参加

4) ICT 機器の導入促進

・三菱総合研究所「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」に介護老人福祉施設にしまち幸朋苑が参加

・鳥取県介護テクノロジー定着支援事業補助金、鳥取県介護ロボット・ICT 導入支援事業補助金により ICT 機器、リフト等機器を導入。生産性向上の効果あり（見守り支援システム眠り SCAN：居室転倒 30%減（R5.8～）、ケア記録支援システムすぐろく：記録残業時間介護士

67%減（〃）、AI 議事録作成ソフト noman 導入）

・ ISO 手順の動画化推進：主任会中心にケア手順動画を作成し e-ラーニングシステムで共有。

5) 協力医療機関連携（協力対象施設入所者入院加算）

・ 入居者情報共有方法、在宅復帰受入れ等について鳥取赤十字病院と継続的に意見交換を実施（医療・介護連携システム Mell+活用、老健ショートを使った入退院連携）

6) 第 29 回こうほうえん法人研究発表にいなばリアから 9 題発表。内 1 題優秀賞、内 1 題奨励賞受賞

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

1) 間違いようのない手順の実践と改善

・ ISO 内部監査（2 月）、横断内部監査（7 月）、サーベイランス（11 月）実施（B 所見：1 件、0 所見 9 件、G 所見 21 件）年間活動計画に沿って実施し手順書の改善を行った。

2) 利用開始までの時間と対応の分析

・ 鳥取赤十字病院と協力病院契約を行ったことで、入退院のスムーズな対応や新規相談の増加に繋がった。施設で対応できる医療処置や入院相談時の注意事項なども協議したことで、相互理解が深まり連携体制が強化された。

・ エリア全体の新規相談件数や入院、空床情報を共有する仕組みができ、相談室に情報が蓄積されている。蓄積された情報を活用し、事業戦略や営業活動に活用する仕組み作りが検討されている。

3) ICT による（電子記録システム、SNS 等）による業務効率化、データの活用

・ ワイズマン ASP を中心とした、記録・書類作成・情報共有の一元管理システムの構築が進展した。また、事業所毎に生産性向上推進者を配置し定期的に情報を発信することで、職員一人一人の理解もすすんだ。

・ ケアプランデータ連携システムやメールでの提供票・実績票等の受け渡しが活用されるようになりコスト削減と効率化に繋がっている。

4) 職場の課題を出すことのできる仕組みの再構築

・ 会議、委員会活動を見直し、連携会議に各事業所・委員会からの懸案事項を吸い上げて回答を出すシステムを構築した。

5) BCP の整理・統合（活用しているものの整理）

・ BCP 訓練および机上訓練を 4 回実施、検討会、勉強会を実施し BCP の更新を行った。

6) 地域貢献活動の充実と情報発信の強化

・ 公民館への出前講座の実施（城北、遷喬、中ノ郷、浜坂、湖山西、湖山、湖山茶屋、中の茶屋、末恒）及びホームページで各事業所の活動を公開。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第1位）

事業所名	定員(人)	令和6年度(%)	令和5年度(%)	令和4年度(%)
介護老人保健施設 いなば幸朋苑	80	89.3	89.0	88.4
ユニット型介護老人保健施設 いなば幸朋苑	20	90.7	87.6	84.8
ケアハウスいなば幸朋苑	50	92.3	90.0	89.0
生活支援ハウス いなば幸朋苑	20	99.0	99.0	93.1
グループホームはまさか	9	99.4	98.0	99.5
介護老人福祉施設 新しいなば幸朋苑	80	96.1	98.2	97.7
地域密着型特定施設入居者 生活介護 新しいなば幸朋苑	29	99.5	95.8	79.9
特定施設入居者生活介護 新しいなば幸朋苑	36	99.0	98.5	96.5
介護老人福祉施設 にしまち幸朋苑	30	98.8	99.7	98.4
小規模多機能型居宅介護 デイハウスじゅんぷう	25	89.0	96.3	77.0

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	○いなば幸朋苑 ・7/17 開苑記念 ・9/12 敬老祝賀会 ○新しいなば幸朋苑 ・4/10 開苑記念 ・9/12 敬老祝賀会 ○にしまち幸朋苑 ・7/2 開苑記念 ・9/11 敬老祝賀会
BCP等訓練実施状況	○いなばエリア ・10/17 2/6 BCP机上訓練 ・訓練は、防災訓練と合わせて実施 ・6/13 水害想定避難訓練 グループホームはまさか → いなば幸朋苑 参加者 12人 ・6/5 水害想定避難訓練 デイハウスじゅんぷう → にしまち幸朋苑 参加者 21人 ・水害想定避難訓練

	11/21 鳥取市北デイサービスセンター 参加者 10 人 ・ 8/26、1/23 水害想定避難訓練（垂直避難） 新しいなば幸朋苑 参加者 32 人
エリア内研修状況	○新人職員研修 ○エルダー会・新人体験発表 ○感染対策研修会（感染予防・手洗い） ○認知症・DCM 研修会 ○法令遵守・プライバシー保護研修会 ○身体拘束・高齢者虐待研修会 ○接遇・コミュニケーション研修会 ○看取り研修会 ○腰痛予防・ノーリフティング研修会 ○リスクマネジメント研修会
エリア内会議、委員会活動	【月例】 ○連携会議 ○人財会議 ○看護師会 ○教育研修委員会 ○苦情対策委員会 ○リスクマネジメント委員会 ○I T/広報誌作成委員会 ○定例会 【定期】 ○感染対策委員会 ○苦情解決第三者委員会（2 回/年） ○ISO 委員会 ○身体拘束適正化委員会 ○褥瘡部会 ○ふれあいの橋の会 ○給食委員会
委員会活動等の成果・実績・反省	○エリア連携会議 法人連絡会議からの指示事項、収支改善に向けた活動状況、委員会・事業所からの検討事項を確認。事業、職種、建屋を超えた縦横斜めの連携を深めるため、各部署からの提案や課題を協議している。次年度も、連携強化、組織作り、収支改善、品質向上を目標に戦略的に取り組む。 ○看護師会 各部署毎月の感染症・褥瘡・誤薬・レベル 5 以上事故：発生状況を確認し、複数の部署で助言・対策について情報交換し委員メンバーから現場へ伝達を行った。褥瘡については看護主任が窓口と

	なり他部署への対策指導 1 件実施。 感染対策：7 月エリア内での面会制限基準を提案、感染対策委員に検討依頼し内容確定、利用者家族向けに文書発信した。 誤薬対策：R6 年度エリア内発生累計 26 件(内誤薬 17 件・与薬忘れ 6 件・セットミス 3 件)。看護主任でいなばエリア版服薬手順マニュアル作成・発信、9 月エリアでの誤薬対策会議の依頼を受け現場向けの注意喚起資料 2 種(基本的な薬剤知識・特に危険な薬剤)を作成し各部署で活用してもらうよう主任宛に発信した。また、看護ステップ委員の活動として各部署での服薬手順チェックを実施した。 喀痰吸引事業：1.2 号指導看護師新規 2 名、実地研修エリア内計 10 名実施。県主催指導講師も実施している。 主催研修：鳥取市結核出前講座 15 名参加。 その他：エリア内 AED 管理を一覧作成。看護主任管理とした。 次年度：部署を越え意見交換し、引き続き医療的な視点での指導・情報提供を実施していく。 ○教育研修委員会 令和 6 年度研修参加職員数（延べ）1635 名。 令和 5 年度研修参加職員数（延べ）1189 名と比較し、約 73%増加している。研修形態が集合研修だけでなく、zoom 等によるオンライン研修の定着、部署内研修開催の増加が要因と考えられる。エリア内研修においても、zoom 研修と e ラーニングを併用し、現地外であっても参加できるような体制を整えることができた。 ○苦情対策委員会 令和 6 年度：苦情・ご意見 24 件（令和 5 年度：17 件）と増加した。前年度と比べ、ケア内容・施設環境・衛生についてのご意見が特に増加した。利用者満足の向上に向け、今後も再発防止策を検討し、同じご意見が寄せられないように取り組んでいく。 ○ノーリフティング委員会 毎月の稼働率推移を確認し、少しずつだが稼働率アップとなっている。ラウンドを年 2 回実施したが、その後の対応まで繋げられなかった。来年度、ラウンド実施を継続し、現場職員の意見・相談等を吸い上げ、情報共有から水平展開まで行えるよう一連の流れを構築する。全部署対象で再度ノーリフティングの理念を浸透させ、ケアに反映・腰痛予防に努める。 ○IT/広報誌作成委員会
--	--

	委員会メンバーを再編し、各拠点に担当委員を配置。拠点での IT 機器トラブル等に迅速な対応を行うこととした。 DX の推進が進められる中で IT スキルを更に高めることと、多数の人材育成が今後の課題である。 ○感染対策委員会 感染対策委員会のメンバーを再編し、指針等も新たに修正した→幅広い職種で構成し多職種連携が繋がるような構成にしている。 R6 年度：コロナウィルス感染については(延べ人数)利用者 90 名。職員 86 名。インフルエンザ(延べ人数)利用者 17 名。職員 26 名。ノロウイルス(感染性胃腸炎)利用者 0 名。職員 7 名。R6 年度の傾向として、前年度と比較し利用者のコロナ感染者数は減少している。(昨年度は 136 人)感染者数だけに注目すると減少している。標準予防策を含めた感染対策が浸透しつつあると推測するが感染発症の初動の動きが遅れると拡大しやすい傾向にあった。保健所へ報告した集団発生も 1 件発生している。標準予防策の徹底を基本とし職員へ周知していく活動が引き続き重要と考える。R7 年度もクラスター発生を予防していく取り組み(標準予防策の強化を図る取り組み)を実施していく。 ○苦情解決第三者委員会 (2 回/年) 苦情・ご意見について協議を行い、常に、相手の気持ちを考えながら対応していくことの重要性、利用者・家族とコミュニケーションを図り、信頼関係が構築できるよう、対応していくように、各事業所へ周知を図った。 ○ISO 委員会 横断内部監査(R6.7)、サーベイランス審査(R5.10)内部監査(R7.2)を実施。ICT 機器導入による工夫、事業所の状況に合わせた手順の変更、法令で定められたアルコール度チェック、BCP 訓練、虐待防止・感染対策委員会の開催状況を確認した。令和 7 年度は、監査員が現場で直接聞き取る手法を増やし、リスク管理、PDCA サイクルによる継続的改善を高めた活動を展開する。
--	---

6 人財状況

外部研修等講師派遣実績	○介護技能実習評価試験 試験評価 評価者 石井 陽介 中村 有希
外部役職就任状況	○鳥取県介護保険審査会専門調査員 中野千香子 ○鳥取県東部広域介護保険認定審査員 池本 圭子 ○鳥取市認知症初期集中支援チーム員 岸 清志

	○鳥取県東部医師会裁定委員 岸 清志 ○鳥取県言語聴覚士会 理事 赤峰 孝宏 森田 愛 ○鳥取県小児保健協会 理事 森田 愛 ○東部保健医療圏地域保健医療協議会委員 森田 愛 ○鳥取県栄養士会 災害対策部運営委員 小倉久美子 ○鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議委員 小倉久美子 ○鳥取県介護支援専門員連絡協議会東部支部理事 山根 樹美
外部表彰受賞状況	○令和6年度 優秀勤労障害者努力賞 小國 翔平 ○介護付きホーム研究サミット 2024 優秀賞 谷岡 雅仁

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 <u>延人数 324 人</u>	島根大学 鳥取看護大学 鳥取県看護協会 鳥取県立鳥取看護専門学校 鳥取県立産業人材育成センター倉吉校 鳥取市医療看護専門学校 鳥取社会福祉専門学校
ボランティア受け入れ実績 <u>延人数 100 人</u>	あんしん介護相談員（訪問相談） 個人・団体・社会福祉協議会紹介者 鳥取県立鳥取東高等学校・鳥取県立湖陵高等学校 鳥取城北高校・鳥取県立緑風高校・美作大学
見学受け入れ実績 <u>実人数 99 人</u>	利用希望者・家族・知人・ケアマネジャー 岩井あすなろ・国府町居宅・遷喬地区民生委員
地域交流活動実績 1 <u>実施回数 0 回</u> <u>実人数 0 人</u> <u>延人数 0 人</u>	（事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業） 実績なし
地域交流活動実績 2 <u>実施回数 0 回</u> <u>実人数 0 人</u> <u>延人数 0 人</u>	（地域の交流事業に利用者と共に参加したもの） 実績なし
ボランティア・環境活動等の実参加者数	（ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数） 17 人 / エリア職員数

ボランティア・環境 活動参加実績 1 <u>投入実人数 17 人</u>	(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) 浜坂地区防災訓練・湖東学習交流センター消防訓練 城北小学校資源回収・清掃ボランティア(鳥取北)
ボランティア・環境 活動参加実績 2 <u>投入実人数 655 人</u>	(見守り活動・学校活動の手伝い等) 浜坂小学校はまっこパトロール 中ノ郷中学校ワクワク中ノ郷 北中学校ワクワク北中 西中学校ワクワク西中 鳥取盲学校
地域発信活動実績 (介護、看護の日、 イベント開催等)	介護の日
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成 講座、地域包括支援セン ターのみの活動は除く)	回数、養成者数、資格者投入人数は、必ず記入してください。 実績なし
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催 及び参加等、地域包括支 援センターのみの活動は 除く)	城北ふらっとサロン(憩の家) 城北マルシェ 城北民生委員 医療生協城北支部班 公民館(城北、遷喬、中ノ郷、浜坂、湖山西、湖山、湖山茶屋、中の 茶屋、未恒)

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	19
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル5	事故が死因となった場合	1
虐待及び身体拘束の 状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした。		
感染症の集団発生状 況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) にしまち短期入所生活介護 10 床 介護老人福祉施設 10 床 の混合フロア 報告日 R7.1/7 収束日 R7.1/14 感染者数: 11 名		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	7 件	16 件	1 件

令和6年度事業報告書（北東京 エリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

- 1) 特養：目標であった稼働率 97.5%は達成できず 95.2%の結果となる。ユニット型特養の入居希望者が大きく減少、施設長の特別枠を活用しながらも新規調整に苦戦する1年であった。収益に関しては安定しており、2月時点で予算に近い数字(経常増減差額 43.1 百万円、以下この項1では、収益は経常増減差額ベース)が出ている。余暇活動として屋上の菜園を開始する。入居者と職員の合同活動として来年度も継続して実施していく。
- 2) デイ：前年度から要支援者割合 23%が続き、年度初めに稼働が低迷する中、主任・看護師配置、専門生2名雇用と職員の過剰配置となった。営業活動に力を入れ新規事業所5件開拓し登録者数も増え、イベントでの増回もあったが、後期はSS利用での休みが増大、平均稼働率 86.6%と大幅な稼働アップには至らず▲9.6 百万円(2月現在)のマイナス収支となった。レクレーションに頼った集客に留まらず、介護職のスキルを活かした強みをつくり利用者層の拡大も視野に SNS の活用にも力を入れ展開していく。
- 3) ショート：職員退職により年間通し受け入れを制限せざるを得ない状況であった（特養の空床利用 139 日）。派遣雇用、3件の紹介手数料、役職者の現場フォローによる超過勤務等人件費が嵩み収益に影響、▲2 百万円(2月現在)のマイナス収支となった。福祉用具の導入で職員の負担軽減に繋がったが、その他業務効率化の課題に着手できず、ミーティング・研修・委員会活動などに参加できないことが多かった。職員のやりがい醸成のためにも、慣習的業務の改善を行いスキルアップできる環境を整えていく。
- 4) 就労支援：出張販売や納品先の拡大、出張販売の売り上げのアップができ、原材料の大幅な値上げが続く中、黒字に終わらせることができた(2月現在、7.8 百万円)。職業指導員が大怪我のため2か月半不在の間も、職員全員で協力して商品開発と販売活動に励み、対前年比で売り上げを上げる事が出来た。小さな事業所だが、浮間こうほうえんの地域の窓口として公益事業に力をいれ、地域からの評価を得る事ができた。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) 介護：法人研究発表において3年連続で優秀賞を受賞する。ICT 機器である眠り SCAN をバージョンアップし、眠り CONECT を導入し業務改善を進めている。
- 2) 特養：ウェアラブル端末の試験導入を実施、リアルタイムの健康状態を確認出来るため、今後の健康管理に大きく役立つことが考えられる。今検証した機器については、血圧や血中酸素が測定できないタイプであった為、機器のバージョンアップに期待。
- 3) デイ：前年度から更にボランティアを増やし、毎月保育交流も実施、月14回のイベントを開催し、集客につなげた。板橋区へ範囲を広げた営業で5件の新規事業所を獲得した。お試し利用(1日の過ごし方)・初の正月営業・月毎のイベント等ポスターを配布、年間43名の新規を獲得し昨年に増してうきまデイサービスの知名度を高めることができた。
- 4) ショート：口腔連携強化加算算定を開始、健康管理の支援としてご家族からも良い評価を受けた。8月から機能訓練指導員不在となったが、特養リハ職の協力、介護職員による生活リハ

ビリを実施することで利用継続してもらうことができた。3種の福祉用具を導入し、利用者・職員の負担軽減と業務の効率化を図ることができた。

5) 就労支援：

- ①月一回の地域と職員と一緒に参加するピラティス教室が定着し、多くの地域の方が楽しみにしてくれるようになった。またグループワークなどをする事で職員と地域の方の親睦も深まり、事業への理解を深め子供食堂への寄付も募る事が出来た。
- ②引きこもり等の居場所支援事業としての「SLOWSTEP」では、支援級の小学生が半年間利用、また31歳の支援学校卒の男性が年度末より利用している。行く場所のない軽度の障害のある地域住民の社会復帰の場として大きな役割を果たすことができた。
- ③長期休暇中、営業日は毎日昼ご飯を提供する「ごはん応援プロジェクト」を夏休み、冬休み、春休みと行った。地域のボランティア団体スマイルリンクさんが協賛に入ってくれ、何等かの事情によりお昼ご飯の用意のできないご家庭のお子さんを対象に、軽食と日用品の配布を行った。毎回実施することで定着してきており、本当に支援の必要な子供たちに、休み中いつでも行ける子供食堂として貢献できた。

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 1) 特養：目標稼働率 97.5%に対し、年間平均稼働率は 95.2%(前年度比▲0.5P)であった。この1年間で新規入居されて方の医療依存度が上がっており、持病による長期入院者が増えた事により稼働率に大きく影響を与える(入院延べ日数は 847 日)。人件費率 62.6%(2月まで)で推移している為、介護保険事業収益は稼働率低下に伴い減少しているが、サービス活動増減差額は 40.4 百万円(2月まで)を確保した。
 - 2) デイ：目標稼働率 79.0%に対し 69.6%であった。介護支援事業所 5 件の開拓で一定数の新規を獲得したが、要支援者が 14 名と多く一日の登録者数は微増に留まった。SS 利用・体調不良・入院等の理由で 1 日平均の休みが 5.0 人(前年比 0.6 人減)あったことが要因。また、支援者多数により収益が伸びない中、職員数増により 2 月までの人件費率 84.4%、サービス活動増減差額▲10.4 百万円となった。
 - 3) ショート：目標稼働率 91.0%に対しが 86.6%であった。年度初めより退職・異動で職員不足となり年間を通し受け入れを制限せざるを得ない状況が続いたことが大きな要因。日々丁寧な対応で CM・ご利用者からは変わらず信頼を得られており利用依頼は絶えない。派遣雇用や役職者の現場フォローによる超過勤務増などにより 2 月までの人件費率 73.2%、サービス活動増減差額▲2 百万円。職員の定着と慣習的業務の改善を行いサービス向上に向け取り組んでいく。
- 4) 就労支援：
- ①大規模修繕の申請を無事行う事ができ、環境整備に向けて一步前進できた。
 - ②常に新しい商品、お客様のニーズに沿った商品の開発に努め、原材料高騰の中売り上げを上げる事が出来た。
 - ③職員が少ない事で職員同士のコミュニケーションをしっかりとる事ができ、気兼ねなく伝え合う事で問題を小さいうちに改善できる風土ある。半面、職員数が少なく希望の有給が取り

づらいという問題を解決できなかった。また大きな怪我の為長期休暇を取る職員が 2 名いたことも有給が取りづらい原因となった。

④地域の健康教室、子供食堂、ひきこもり居場所支援と、公益事業に力を入れ、地域住民をはじめ多くの客様から感謝の言葉や評価をいただいた。インスタグラムもフォロワーが 1,800 人を超え、その後も安定して伸びており、遠方からもフォロワーさんが来店するようになった。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第 1 位）

事業所名	定員(人)	令和 6 年度(%)	令和 5 年度(%)	令和 4 年度(%)
介護老人福祉施設 うきま幸朋苑	115	95.2	95.7	94.0
デイサービスセンター うきま幸朋苑	30	69.6	71.9	84.5
短期入所生活介護 うきま幸朋苑	19	86.6	93.4	69.8
ブレッド&バター	13	100.0	104.0	100.0

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	[4月] 花見・パンケーキ作り・ゲーム大会・メイク・季節湯 [5月] 三味線・三線・フットケア・ハンドマッサージ保育交流・季節湯 [6月] コンサート・ネイル・パフェ作り・保育交流・季節湯 [7月] セタ行事、こうほうえん祭り・三味線・コンサート・メイク・ハンドフットケア・保育交流・季節湯 [8月] アクセサリー作り・すいか割・フラダンス・ネイル ハンドフットケア・保育交流・季節湯 [9月] 長寿を祝う会・芋餅作り・アクセサリ作り・運動会・保育交流・ネイル・メイク・三味線・敬老会・ヘアメイク・季節湯 [10月] 避難訓練・コンサート・縁日・キーホルダー作り・スイートポテト作り・三味線・保育交流・季節湯 バスハイク(就労支援) [11月] アクセサリー作り・コンサート・芋煮会・マジックショー・保育交流・ハンドフットケア・季節湯・ハロウィン [12月] クリスマス会、忘年会・書道・三味線・ネイル・メイク・アロマポット作り・ピアノコンサート・クリスマス会・保育交流・季節湯・音楽会 [1月] 初詣・新年会・餅つき・アクセサリ作り・書道・三味線・梅が枝餅作り・保育交流
--------	--

	[2月] 節分鬼退治・ネイル・メイク・チョコパイ作り・保育交流・写真立て作り・書道・コンサート [3月] ひな祭り、花見・書道・コンサート・保育交流・コースター作り・避難訓練
BCP 等訓練実施状況	災害 BCP 図上訓練：2 回/年（10 月・3 月） 感染症 BCP 訓練：複数回実施（11 月～3 月）
エリア内研修状況	新人職員研修、ユニットケア研修、リスクマネジメント研修、介護技術研修、身体拘束適正化研修、研究発表事前研修、虐待防止研修、ビジネスマナー研修、アンガーマネジメント研修、感染症研修(吐物・手洗い)、看取りケア研修、安全運転研修、法令遵守研修、認知症研修、リフト操作研修、個の尊厳プライバシー保護の研修、食中毒研修、ICT 機器に関する研修、眠りコネクト研修
エリア内会議、委員会活動	介護戦略会議(毎月)、エリア戦略会議(毎月)、健康戦略会議(毎月)、特養専門職連携会議(毎月)、在宅主任会議(毎月)、ユニットリーダー会議(毎月)、ユニット会議(随時)、デイ会議(毎月)、ショートステイ会議(毎月)、給食会議(毎月)、医務会議(毎月)、公益的事業定例会議(毎月)、身体拘束適正化委員会(3 ヶ月に 1 回)、虐待防止委員会(3 ヶ月に 1 回)、生産性向上委員会(3 ヶ月に 1 回)、LIFE 推進委員会(毎月)、リスク部会(毎月)、排泄部会(2 ヶ月に 1 回)、褥瘡部会(毎月)、感染対策部会(3 ヶ月に 1 回)、エルダー会義(毎月)
委員会活動等の成果・実績・反省	LIFE 推進委員会：令和 3 年の LIFE システム稼働開始から初の報酬改定を迎え、対象サービスの拡大は無かったものの、提出情報の拡大と頻度が 2 倍に増えた。運営企業の変更に伴い、新システムが 8 月より稼働を開始し、11 月には事業所フィードバックが、1 月末には個別フィードバックが開始された。これまで LIFE 担当のみ直接フィードバックを参照していたが、今年度は専門職、ケアマネジャーも参照を始め、年度末にはケアプランに携わる介護職員も参照できるようシステム導入を完了、フィードバックのケアへの反映を実施している。年間を通して国の運営システムの助走期間が大半であったが、うきま介護ではその間並行して、LIFE フィードバックを適用でき記載内容を最適化した新ケアプラン書式の開発を開始、年度内にほぼ完成し試行運用を行っている。 リスク部会：要因レベル①をなくし②を前年度より減らす目標としていたが、②は前年度 76 件に対し、61 件と減少し目標

	達成。ご意見での①が1件発生と目標達成できない結果となった。しかし、①も前年度10件から今年度1件と数は減少している。全体的な事故件数も352件から305件と減少し、特に転倒骨折に関しては1件のみに抑えられている。3-1レベルの事故も18件から9件へ減少している。これは要因分析に基づき防止策を立てられていることと、事前の環境設定や「事故が起きても怪我をしない防止策」が立てられている結果と言える。一方で職員に対してのご意見が14件上がり課題となった。引き続き要因分析と適切な防止策を講じ更に防ぐべき事故の減少を目指す。 排泄部会：排泄用品のコスト削減を目標にしていたが、4月から7～8%の値上がりを引いても130万程のコストアップになった。適時パットの見直しを実施していたが定期発注による在庫数が増えている事が課題となった。来年度からは定期発注を止め、全て必要な個数を発注する事とする。おしりふき値上がりあり、他社の試供品で評価し、問題なければ変更予定。その他、排泄アプリを活用した根拠に基づいた排泄ケアに取り組み業務改善を進める。 感染症対策部会：感染対応・手洗い・吐物処理の研修を各担当看護師が研修を行うことで全職員に実施することができ、感染拡大が起こらず最小限に留めることができている。グローバル人材の方にも伝わりやすいマニュアルの作成・写真などを用いて研修を行う必要も今後の課題である。また、年間研修を予定する事でスムーズに取り組んで行くよう次年度は実施予定。 褥瘡部会：年度目標としていた「前年度より褥瘡総件数・殿部発生件数以下を目指す」に対して総件数12件（前年11件）、殿部褥瘡件数7件（前年9件）とおおよそ達成することができている。R5年度より実施している「I度発見報告」については、10件と褥瘡件数よりも少ない値となっており、平均治癒日数も33.3日のため、早期発見への意識が課題となっている。次年度に向けて、I度発見と保清への取り組み強化に努めていく。 総括：昨年度より事前の議事録発信・時間の短縮設定をした事により、スムーズな会の進行を進める事が出来た。今後は、会議の集約アプリであるノーマンを活用し、さらなる業務改善を進める。
--	---

6 人財状況

外部研修等講師 派遣実績	該当なし
外部役職就任状況	・北区老人福祉施設 施設長会 副会長 田中理江子 ・東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 介護職員研修委員会 幹事・書記 金海 祐介 ・東京ケアリーダーズ 田名部 周悠 ・テクノエイド協会リフトリーダーテキスト研修委員会 委員 持吉孝郎
外部表彰受賞状況	該当なし

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 <u>延人数 152 人</u>	立教大学、十文字学園、昭和女子大学、東京家政大学、帝京大学(看護)、東洋大学、明治学院大学、浮間中学校特別支援学級、王子特別支援学校、東京教育専門学校
ボランティア受け入れ 実績 <u>延人数 304 人</u>	スターフェスティバル(楽器演奏)、未来プロジェクト(美容)、帝京大学、桜が丘高校、桐ヶ丘高校、暁寿会(踊り)、似顔絵サークル、eha-ohana(フラダンス)、手品クラブ、近隣住民(傾聴・将棋・制作・書道)、全国こども食堂支援センターむすびえ
見学受け入れ実績 <u>実人数 74 人</u>	ご利用者、ご家族、居宅介護支援専門員、入所(利用)希望者、実習希望者、民生委員、(株)リタリコ、北区施設長会、王子特別支援学校、板橋特別支援学校、豊島区仕事相談センター、個別対応入園希望者、北区民生委員
地域交流活動実績 1 <u>実施回数 26 回</u> <u>実人数 863 人</u> <u>延人数 863 人</u>	(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) こうほうえん祭り 1,000 名、花火鑑賞会、子ども食堂(12 回)360 名、わくフェス(2 回)3 名
地域交流活動実績 2 <u>実施回数 1 回</u> <u>実人数 15 人</u> <u>延人数 15 人</u>	(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの) 敬老会
地域交流活動実績 3 <u>実施回数 9 回</u> <u>実人数 184 人</u> <u>延人数 184 人</u>	(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) ピラティス教室

地域交流活動実績 4 実施回数 1 回 実人数 30 人 延人数 30 人	(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) 豊川小学校特別支援学級 職場見学会
ボランティア・環境活動 等の実参加者数	(ボランティア・環境活動等に 1 回でも参加した職員数) 地域夏祭り 3 人 / エリア職員数 向原地域まつり 4 人
ボランティア・環境活動 参加実績 1 投入実人数 86 人	(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) ・地域清掃活動 開催回数 10 回、参加人数 86 名
ボランティア・環境活動 参加実績 2 投入実人数〇〇〇人	(見守り活動・学校活動の手伝い等) 実績なし
地域発信活動実績 (介 護、看護の日、イベント 開催等)	・第 18 回わくフェス (浮間・北赤羽協議体) ・第 19 回わくフェス (浮間・北赤羽協議体) ・北区社会福祉協議会主催・小学生向け職業体験
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成講座、 地域包括支援センターのみの 活動は除く)	回数、養成者数、資格者投入人数は、必ず記入してください。 ・子ども食堂事業「けんこうキッチン」 開催回数 12 回、参加述べ人数 120 名
地域発信活動実績 (講 習会、講演会の主催及び参加 等、地域包括支援センターの みの活動は除く)	実績なし

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル 3 以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル 3	事故の為、医療機関での継続的な治療 が必要になった場合	9 件
	レベル 4	事故により、障がいが残った場合	0 件
	レベル 5	事故が死因となった場合	0 件
虐待及び身体拘束の状 況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると 判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況 (保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載)事		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	ご意見
	0 件	14 件	0 件

令和6年度事業報告書（西東京エリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

- 1) エリア収支は、介護事業では上石神井特養が安定化したものの、居宅介護サービスでの稼働が安定せず、人財確保の困難も続いた。介護事業・住宅事業全体の底上げは図れてきた。保育事業での収益の維持もあり、エリア全体での黒字は維持できた。
- 2) 各拠点単位での地域における認知度の向上に努めている。拠点単位の特徴を活かし、協働して取組むことを基本とし、地域貢献活動を積極的に展開している。こうほうえんが地域内のハブ機能となれるよう積極的な地域への展開に努めた。特に、向原拠点での毎月開催するかけはし喫茶や、近隣小中学校から絵本をプレゼントしていただき「どうぞの絵本」の実施は、多くの講評をいただいている。
- 3) 介護事業では、各拠点でのサービスの組み合わせが異なっており、それぞれのサービス利用に有益ではない組み合わせもあり、ご利用者獲得に困難さがある。そこで、エリア内で相談・学びの場として、営業活動を学び実践し、稼働率向上に努めてきた。特に、居宅介護支援事業者や地域包括支援センターとの連携・情報共有などを積極的に展開している。さらに、各拠点単位でのサービス間の連携・協働を進め、拠点間でのご利用者の営業活動も推進している。
- 4) 保育事業においては、定員割れの園が顕著となっているが、向原保育は 99.7%の運用定員稼働、下落合保育は 86.7%の稼働となった。特に、下落合の定員割れが顕著であり、今後も園児数減少が見込まれる中、選ばれる保育園になるための取組（保育内容・サービスの質の向上）、多機能化（児童発達支援事業の併設）に取り組んでいきたい。
- 5) 拠点単位での経営課題が多様である中、拠点単位で解決のため課題分析を行い、課題を絞り込み、解決案を作成。向原拠点では、組織の再構築を図り、高齢・介護事業における施設長の設置、職員の兼務化による柔軟なシフト体制を実施する。また、介護サービスの一部休止も視野に入れていく。下落合拠点では、サービス利用を連続できる種別の選択を進め、サービスの再構築を図る。また、保育園における多機能化を検討進めている。上石神井では、ショートと特養利用の連続性を保てるよう待機者へのアプローチ方法の見直しを実施している。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) 介護事業では、各事業における稼働を高めることを目的に、エリア内で相談・学びの場を毎月開催。管理者・相談員が営業活動を学び実践し、稼働率向上に努めてきた。また、各拠点単位でのサービス間の連携・協働を進め、拠点間でのご利用者の営業活動も推進している。
- 2) 向原拠点は、開設時から東京都の地域包括ケアシステムのモデル地域として指定を受けている。その母体となる会議体として向原医療介護連携会議があり、令和6年度は本会議・講演会・勉強会を年2回ずつ開催した。
- 3) 向原拠点では、かけはし喫茶を地域貢献事業として毎月開催。デイハウスご利用者、地域住民、向原キッズのこどもたちの交流の場としている。また、地域包括支援センターから出張相談にお越しいただいている。4月は「お花見」、5月は「新茶を楽しむ」など、季節に応じ

たイベント・交流としている。年間 300 名の地域住民等の参加に繋がった。

- 4) 下落合拠点では、新宿区社会福祉協議会へ加盟し、区内の他の社会福祉法人との交流も重ね、1 法人では行えなかった公益的な取り組みを展開。フードパントリーを実施した。この交流で知合えた障がい者施設から保育園に見学が訪れるなど、新たな交流のスタートともなっている。
- 5) 上石神井拠点ではアカンサスホールを地域住民の参加も視野に春喫茶や夏祭りの開催、地域福祉講座の開催、よろず相談の実施を継続している。

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 6) 令和 6 年度のエリア目標として、Ⅰ拠点内サービスの協働と当たり前品質の徹底、Ⅱ持続可能で健康な組織づくり、Ⅲ経営の安定化、Ⅳ新たなファンづくりを掲げて取り組んだ。
- 7) 拠点内サービスの協働と当たり前品質の徹底においては、3 拠点単位での特徴を活かし、協働して取組むことを目指し、連携の再構築、こうほうえんが地域内のハブ機能となる、サービス品質の当たり前化、ご利用者視点での DX 化に取り組んだ。
- 8) 持続可能で健康な組織づくりにおいては、業務改善の徹底、会議体の見直し、個別面談の常態化、働き方の見直しを推進できた。特に、同じような会議体の一本化、スリム化を図った。また議事録作成ソフト「ノーマン」の導入、記録ソフト「すぐろく」の活用、タブレット機能の活用・増設、コドモン機能の拡充など、業務改善を図り、生産性の向上に努めた。
- 9) 経営の安定化においては、事業収支と経営指標の見える化を図り、経営課題の分析・課題解消に努め、稼働率の向上を推進した。特に、拠点単位での経営課題解決のための作成会議で課題分析を行い、課題を絞り込み、解決案を作成。毎月収支が見える化し、管理者が数値で経営課題を把握できるように努めた。
- 10) 新たなファンづくりにおいては、地域に開かれた施設づくりにするため、多様な情報発信と公益的取組を展開した。ホームページやインスタグラムの活用、掲示板の活用を丁寧に拡げた。向原拠点での毎月開催するかけはし喫茶や、近隣小中学校から絵本をプレゼントしていただき「どうぞの絵本」として園内で展開した。また、下落合拠点では新宿区社会福祉協議会に加盟。ゼロ歳児募集におひさまクラブを継続開催した。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第 1 位）

事業所名	定員(人)	令和 6 年度(%)	令和 5 年度(%)	令和 4 年度(%)
コーシャハイム向原	50	99.9	99.5	99.5
デイハウスむかいほら	27	86.7	71.0	66.6
特養上石神井	40	96.3	94.9	96.7
ショートステイ上石神井	4	92.3	97.9	82.3
デイハウス下落合	27	60.2	75.6	88.8
ショートステイ下落合	27	96.0	99.5	71.9

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	【サ高住】 4 月エリア辞令交付式 6 月梅ジュースづくり 7 月七夕まつり 8 月オールジャパンケアコンテスト 9 月避難訓練 10 月秋祭り 10 月・3 月苦情解決第三者委員会 11 月かけはしまつり 【向原 DH】 母の日、七夕、かき氷作り、変わり湯、クリスマス 【下落合介護】 父の日、七夕、敬老会、ハロウィン、世代間交流 【上石神井】 12 月クリスマス会 1 月書初め 2 月自衛消防訓練
BCP 等訓練実施状況	・ 令和 7 年 1 月より毎月感染症の机上訓練を実施 ・ 下落合：総合防災訓練時に、BCP 計画訓練も平行して実施、見直しを行う
エリア内研修状況	【向原・下落合】 救命講習、安全衛生研修、会長講話&ストレスマネジメント、給与支払者向け定額減税説明会、ユマニチュード研修、高住連セミナー 令和 6 年度同時報酬改定が及ぼすホームへの訪問診療への影響、健康経営講座「健康に及ぼす喫煙の影響について、生産性向上ビギナーセミナー、社会保障研究会、介護業界における DX の重要性と必要性、健康経営講座「ねむりの応援団」、東京都介護職員宿舎借上げ支援事業、筋力維持や栄養、労働契約等解説セミナー2024、緊急時対応講習会、虐待防止に必要な基本的理解、認知症キャラバンメイトスキルアップ研修、介護職員スキルアップ研修 ～医療的知識編～、財務マネジメント初級研修、指導者管理者研修(法令・労災)、認知症サポーター養成講座、高齢者集合住宅研究大会、高齢者権利擁護研修、事故・苦情対応のリスクマネジメント、看取り研修、板橋区虐待防止研修、感染症予防研修、指導者管理者向けメンタルヘルス研修、コンプライアンス研修、管理者研修 管理会計、ストレスマネジ

	メント研修、虐待・アンガーマネジメント、介護サミット・ヘルスケア政策の将来展望、響く、伝わる営業の極意、住宅型・サ高住 併設サービストレンド、BCP 策定後の研修及び訓練に関するオンデマンドセミナー、認知症講演会、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症対応型サービス事業管理者研修、新卒職員研修、新人職員フォローアップ研修、キャリアパス対応生涯研修、新規役職者フォローアップ研修、ソーシャルワーク学研修セミナー、バーゼルインデックス研修 【上石神井】 プライバシー保護に関する研修 倫理法令遵守に関する研修 事故の発生、予防、再発防止に関する研修① <認知症周辺症状> 緊急時の対応に関する研修 感染症及び食中毒の発生予防及び蔓延の防止に関する研修 <食中毒> 感染症及び食中毒の発生予防及び蔓延の防止に関する研修 <感染症> 感染症及び食中毒の発生予防及び 蔓延の防止に関する研修 <シミュレーション> 身体拘束の排除の取り組みに関する研修 非常災害時の対応に関する研修 医療に関する研修 <夜間オンコール> ターミナルケア「終末医療」に関する研修 精神的ケアに関する研修 高齢者虐待防止、関連法を含む虐待防止に関する研修 練馬区福祉人材育成・研修センター「倫理及びプライバシーの保護尾について理解する研修」 練馬区福祉人材育成・研修センター「クレーム対応基礎研修」 DCM マッパー研修 ユニットリーダー研修
エリア内会議、委員会活動	【向原・下落合】 西東京調整会議、向原定例会議、サービス付き高齢者向け住宅相談員定例会議、向原医療介護連携会議、健康経営会議、レストラン運営会議、住宅ステップアップ委員会、小規模ステップアップ委員会、訪問ステップアップ委員会、東京地区介護研修委員会、運営推進会議、職場環境検討委員会、虐待防止委員会、苦情解決第三者委員会、相談員学びの場、かけはしプロジェクト委員会 【上石神井】 連携会議、感染予防部会、リスクマネジメント部会、身体拘束防止部会、虐待防止部会、栄養会議、事務ステップアップ委員会、特養・老健ステップアップ、相談員ステップアップ、リスクマネジメント委員会、東京地区介護研修検討委員会、公益的取組定例会、栄養ステップアップ
委員会活動等の成果・実績・反省	【サ高住】 向原拠点として住宅・介護・保育が一丸となってかけはしプロジェク

	トの取組を実施。毎年開催している「かけはしまつり」に加え、公益的な取組として「かけはし喫茶」を毎月開催。地域住民の孤食、粗食、孤独の解消や多世代交流で多くの地域住民の集いの場を提供できた。来年度は近隣商店街に協力者の拡大を目標にしていきたい。 【向原介護】 運営推進会議では毎回デイハウスの活動を参加者に報告。参加者からは多くのご意見をいただき、運営の参考にさせていただいている。動物系セラピーやかけはし喫茶でのお好み焼き等、次年度に向けたアイデアをいただいた。 【上石神井】 開催は毎月実施。連携会議内で並行して実施している委員会の議事録が別建てになっていなかった。それぞれに取組はしていたが、周知や連携がうまくできていない部分があった為、会議体の周知はサイボウズの活用をする。
--	---

6 人財状況

外部研修等講師 派遣実績	なし
外部役職就任状況	なし
外部表彰受賞状況	自衛消防の組織業務適切功労 署長表彰

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 延人数 37 人	向原介護：東京家政大学 2 人 東京通信大学 1 人、昭和女子大学 3 人 下落合介護：帝京大学看護実習 20 名 上石神井：介護福祉士養成実習 7 名、職場体験 4 名
ボランティア受け入れ実績 延人数 301 人	サ高住：植栽活動 14 名、イベント 121 名、かけはしまつり・かけはし喫茶 163 名 向原 DH：歌 1 名、傾聴 1 名、大道芸 1 名
見学受け入れ実績 実人数 158 人	サ高住：入居希望等見学・内覧者 86 名 下落合介護：目白大学学生 22 名 上石神井：50 名
地域交流活動実績 1 実施回数 25 回 延人数 1,325 人	（事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業） 向原：かけはし喫茶 12 回 579 人、寺子屋むかいほら体操 12 回 146 人、かけはし祭り 1 回 600 名、

地域交流活動実績 2 実施回数 10 回 延人数 38 人	(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの) 自治会棟委員会 2 回 4 名、緑寿会(老人会)1 回 2 名、おとめやま公園子どもの日(下落合 DH) 9 名、サロン向原 7 回 計 23 名、 春喫茶 1 回
ボランティア・環境活動等の実参加者数	(ボランティア・環境活動等に 1 回でも参加した職員数) 大谷口支え合い会議 2 名 ほっとかみしゃく支え合い会議 1 名 5 回 延べ 5 名
ボランティア・環境活動参加実績 1 投入実人数 10 人	(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) クリーンデー 2 回 4 名、自治会防災訓練 1 回 2 名、コーシャハイム向原団地祭り 1 回 4 名、向原施設周辺の清掃活動(雨天時を除き毎日実施)、上石神井地域夏まつり
ボランティア・環境活動参加実績 2 投入実人数 人	(見守り活動・学校活動の手伝い等) 実績なし
地域発信活動実績 (介護、看護の日、イベント開催等)	実績なし
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く)	(回数、養成者数、資格者投入人数は、必ず記入してください。) 認知症サポーター養成講座 1 回 27 名キャラバンメイト 1 名
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く)	サ高住:デジタル是正 携帯勉強会 5 回 45 人、筋力維持や栄養研修 1 回 12 名、認知症研修 1 回 22 名、大谷口支え合い会議体 街歩き 1 人、 防災勉強会 2 人 上石神井:野津和夫氏・辻医師の対談

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル 3 以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル 3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	3
	レベル 4	事故により、障がいが残った場合	0
	レベル 5	事故が死因となった場合	0
虐待及び身体拘束の状況	上石神井:9 月に虐待 1 件発生、通報		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	下落合 DH: 疥癬 10 月 23 日保健所報告、12 月 28 日終息、感染者数 30 名		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	0 件	5 件	3 件

令和6年度事業報告書（南東京エリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

- 1) 引き続き、コロナ感染、クラスターの発生に十分留意しながら「ケアホーム西大井」、「新砂介護」（「グループホーム新砂」、「小規模多機能新砂」、「シルバースティ新砂」の3事業）、「いきいきセンター」（西大井）、保育園（「キッズタウン西大井」、「新砂保育園」）の事業を継続した結果、全体としては、安定的、安全に運営できた。
- 2) 令和5年度に比し、「ケアホーム西大井」では稼働率が少々低下。夏から秋に掛けてお見取り者が続く状況が生じ、退去からクリーニング等新たな入居設定までの期間を要する点などが影響した（その後は新入居に繋がっている）。「新砂介護」では夏以降、多機能において職員の退職者が続き、稼働率が低下する状況が生じた。派遣の活用やシルバースティとの連携向上など工夫を図る中で3月以降新規利用者獲得など一歩ずつだが回復へ繋がりはじめた状況。
- 3) 本年もコロナ禍前に実施していた行事・イベントを徐々に再開し、地域交流活動や世代間交流を広げることができた。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) 「ケアホーム西大井」では、引き続きユマニチュードを軸に取り組む施設として、日々の対応を進め、繰り返し都度の確認や働きかけを進める中で職員の理解や浸透も一歩ずつ進められた状況。引き続き、人としての尊厳・自由・平等・市民権・自立・自律に基づいて目指す「住人」の暮らし、それを尊重する職員の行動、生活の場である施設の在り方について考え続け、実現していく組織を目指す。住人が自分らしく安心して暮らせる住まいづくり、職員が働き甲斐を感じられる職場、絶えず入居や入職の希望が絶えない施設となることを目標に活動が続けていく。ユマニチュードが興味関心のきっかけとなり、見学訪問者（自治体や中国からの希望多く）、入職志望者などが増えてきている。
- 2) 地域交流活動は、「新砂介護」では自治会の一斉清掃や認知症カフェ（銀色茶房）、グループホームでの毎月のイベント、園児との交流会など新たな取り組みも含め積極的に進め、近隣アパートからの参加者も増えた状況。自治会とも連携し秋祭りなど新たなイベントも実施した。西大井では「いきいきセンター」での秋祭り、春祭りを引き続き開催するとともに、前年度立ち上げた「だれでも食堂」が大変好評で毎月盛り上がる形で実施した。引き続き学習支援の場所を貸すことで、子供たちが落ち着いて勉強できる環境を提供した。

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 1) 己を知り、ご利用者を知り、的確なサービスを提供する

「ケアホーム西大井」では、前年度のブロンズ認証取得から引き続き、ユマニチュードを軸として都度日々の取り組みを通じ、繰り返し確認や働きかけを重ね、的確なサービスの提供へ一歩ずつ職員への浸透が図られてきている。

「グループホーム新砂」においては、「眠り SCAN」を引き続き活用し、利用者の睡眠状況の把握から睡眠の質への改善や巡視のタイミング検討など、サービスの提供に効果を得るとともに、職員の業務負担軽減にも繋ぐことができています。

2) 職員育成の充実と職場環境の改善

引き続き、法人として体系化した法人内部の研修、東京地区・エリア・事業所内の研修、交換研修、外部機関による研修・セミナー、現場でのOJT、「互恵互助」の読み合わせ、虐待予防チェックノートやユマニチュード資料の読み合わせ等が日々実施され積上げられており、法人理念の浸透を徹底して図り共有化することが、人財育成に繋がっている。

3) 利用者確保態勢の確立と事業毎の収益改善

「ケアホーム西大井」では、中間でお見取り者が続き、稼働率を下げる状況となったが、入居調整方法を通じ、その後のご利用者の確保へ繋がられた。

「新砂介護」では、引き続き、地域包括支援センター、病院、同業者との会合、近隣とのコミュニケーションを取ることでご利用者の紹介を仰ぐとともに、入院しそうなご利用者に早めに受診を促し入院を防ぐ等でご利用者の確保に努めた。

4) 広報活動実践の強化

「ケアホーム西大井」では、毎月の「だれでも食堂」、春・秋の「いきいきセンター演芸まつり」、「ふれあいの橋」の開催などを通じ、引き続きご利用者、ご家族、近隣住民の方々への広報活動を強化している。

「新砂介護」では、定期的に行っている認知症カフェ、グループホームでの毎月のイベントなどを通じて、ご利用者、ご家族、近隣住民の方々への広報活動を強化している。

「ケアホーム西大井」、「新砂介護」とも実習生やインターンシップの受け入れを積極的に行い、福祉を学ぼうとする学生に福祉業界の魅力を伝え、業界への関心、興味を持ってもらうことに努めた。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第1位）

事業所名	定員(人)	令和6年度(%)	令和5年度(%)	令和4年度(%)
ケアホーム西大井	48	90.4	95.0	91.3
多機能ホーム新砂	29	87.0	88.5	93.4
グループホーム新砂	9	99.3	94.0	98.7
シルバースティ新砂	4	65.7	68.5	71.0

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	○レクリエーション（フラワーアレンジメント、ハンドマッサージ、マジック、ジャズ、コーラス、落語） ○季節行事（誕生日会、100歳の方を祝う会、夏祭り、クリスマス会、もちつきの会、新年会、敬老の日（4日間保育園児来苑））
--------	---

	○ひまわりカフェ ○外出レクリエーション・外出行事（葛西臨海公園、行船公園）、 ○楽器演奏会（ピアノ、フルート、バイオリン、ハーブ、吹奏楽隊、三線、三味線、フルート&ピアノコンサート、コカリナ、歌と演奏）、 ○行事食提供レク（かき氷、うなぎ、パンケーキ、豚汁作り） ○実習生お楽しみ会、○保育との交流会 ○自治会一斉清掃、○自治会との交通安全活動
BCP 等訓練実施状況	○合同消防・防災避難訓練 ○避難訓練 ○火災通報装置操作訓練
エリア内研修状況	○安全衛生研修、○健康経営研修、○新人事制度研修、○感染症研修、○ユマニチュード研修、○口腔ケア研修、○ストレスマネジメント研修、○経営デザイン認証紹介セミナー、○新入職員フォローアップ研修、○特定技能入職者研修 ○指導者管理者研修、○労務管理基礎研修、○労務管理研修、○考課者研修、○互惠互助研修、○キャリアパス研修、○次世代介護機器導入セミナー、○介護業務支援システム導入前セミナー、○カスタマーハラスメント研修、トップマネジメント研修、○認知症研修、○パーソンセンタードケアと認知症ケアマッピング基礎研修、○エビデンスに基づく認知機能の低下予防セミナー、○看取り研修、○自宅・施設での看取り研修、○虐待・身体拘束研修、○平成医会研修（ラインケア_職場のモチベーション）、○中途採用者研修、○中途採用者フォローアップ研修、○次年度方針、○交換研修、○AED 研修、○介護経営サミット、○健康経営研修、○権利擁護研修、○ストレスマネジメント研修、○安全運転研修、○ポジティブメンタルヘルス研修、○レジデンシャルケア、○BCP 研修、○福祉現場のハラスメント研修
エリア内会議、委員会活動	○南東京エリア調整会議 ○虐待防止委員会（年3回以上開催）、○運営推進会議（新砂、偶数月）、○苦情解決第三者委員会（西大井・新砂、各年2回）、身体拘束適正化委員会（新砂、年4回）、○身体拘束・虐待防止委員会（西大井介護、隔月）、○介護3事業所・リーダー会議（新砂） ○リーダー会議（西大井）、○エルダー会議（西大井）、○事務所会議（西大井）、○グループホーム会議（新砂）、○多機能ホーム会議（新砂）、○シルバースティ会議（新砂）、○東京地区研修委員会、○ふれあいの橋の会（西大井、年1～2回）、○安全衛生委員会（西大井、新砂）、○労働安全衛生委員会（西大井、隔月）、○東京地区介護研修委員会、○生活支援委員会（西大井）、○口腔ケア委員会（西大井）、○食事委員会（西大井）、リスクマネジメント委員会（西大井）、○公益的取組会議（※特に明記の無い会議は月1回の開催）

委員会活動等の 成果・実績・反省	○「ケアホーム西大井」においては、各委員会で課題の洗い出しや解決に向けて取り組んだ。引き続き、「虐待・不適切なケア（その兆候含む）、困難事例について検討すること」とし、現場で生じる困難なケアの掌握に努めた。 ○「新砂介護」においては、今年度も職員人員不足から、3 事業所合同で委員会の開催が困難な状況にあったため、サイボウズ内でのやり取りや各事業所単位での話し合いを実施し、議事録の回覧による情報共有を図る形で対応した。
---------------------	--

6 人財状況

外部研修等講師派遣 実績	田中とも江（看護師、施設長） ○品川区施設管理者向け虐待防止研修講師 ○品川区施設推進者向け虐待防止研修講師
外部役職就任状況	田中とも江施設長 ○NPO シルバー総合研究所 理事 ○千葉県 身体拘束・虐待防止 現地指導員、講師 ○大府認知症センター 講師 ○静岡大学情報学部教育研究支援員 ○日本ユマニチュード学会 理事・認定インストラクター
外部表彰受賞状況	○日本ユマニチュード学会 ユマニチュード認証制度： ブロンズ認証の取得 ○第 29 回法人研究発表会 特別賞 西大井 介護士 伊藤皓平 川崎初美 「バーセル・インデックス評価からわかることと活用方法 ～評価者アンケートによる人財育成の視点を含めて～」

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 実人数 92 人	介護福祉士： 品川介護福祉専門学校、東京福祉専門学校、 日本女子大学 社会福祉士： 東京福祉専門学校、日本福祉教育専門学校、 東洋大学、昭和女子大学、日本社会事業大学 首都医校、日本女子大学、日本福祉専門学校 看護： 帝京科学大学、東京医科大学
ボランティア受け入 れ実績 延人数 152 人	○レクリエーション（ピアノ演奏、ハンドマッサージ、フラワーア レンジメント、楽器演奏・歌唱、紙芝居、フラダンス披露・指導、フ ルート演奏、和太鼓演奏、音楽交流とかき氷、夏祭り/秋祭りイベン ト・屋台飯とスイカ割り、祭囃子、昼食作り、三味線演奏、マジッ

	クの披露、アイリッシュハーブ演奏、ジャズ演奏、バイオリン演奏、調理レクリエーション、クリスマスピアノコンサート、落語、コカリナ演奏、カラオケ、健康測定会、音楽レクリエーション) ○中学生のボランティア体験
見学受け入れ実績 実人数 127 人	○入利用希望者(本人、家族) ○中国、台湾、韓国より視察(西大井) ○港南病院、福岡市ユマニチュード推進部より視察(西大井)
地域交流活動実績 1 実施回数 23 回 実人数 145 人 延人数 604 人	(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) ○ピアノ演奏会、○高齢者と保育園児との交流会、○夏祭太鼓ボランティア、○ボランティアによる音楽交流会、○自治会集会所を利用し地域の方との交流および情報収集、○フラダンス、○敬老会(フルート演奏)、○アイリッシュハーブ演奏会、○地域の方とクリスマス会、○健康測定会、○銀色茶房(認知症カフェ)、○吹奏楽ボランティアによるコンサート、○西大井だれでも食堂(11回)
地域交流活動実績 2 実施回数 4 回 実人数 11 人 延人数 27 人	(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの) ○保育餅つき大会参加 ○他介護運動会参加
ボランティア・環境活動等の実参加者数	(ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数) 26 人 / 58 人
ボランティア・環境活動参加実績 1 投入実人数 26 人	(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) ○新砂三丁目アパート自治会一斉清掃活動、年末夜間警備 ○大井第三地区区民まつり看護師派遣 ○西大井2丁目町会女みこし参加
ボランティア・環境活動参加実績 2 投入実人数なし	(見守り活動・学校活動の手伝い等)
地域発信活動実績 (介護、看護の日、イベント開催等)	○健康測定会
地域発信活動実績(認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く)	なし
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く)	○子ども認知症サポーター養成講座(区・連絡会)2名参加

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル3以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	新砂 GH：1 件 新砂 DH：0 件 新砂 SS：1 件 西大井：4 件
	レベル4	事故により、障がいが残った場合	
	レベル5	事故が死因となった場合	
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) 新砂 3 事業、西大井：高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はない。		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) 新砂 GH：なし 新砂 DH：なし 新砂 SS：なし 西大井：感染性胃腸炎：発生 2/10、収束日 3/20、13 名(利用者 12 名、職員 1 名)		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	新砂 GH：0 件	新砂 GH：0 件	新砂 GH：2 件
	新砂 DH：0 件	新砂 DH：0 件	新砂 DH：0 件
	新砂 SS：0 件	新砂 SS：0 件	新砂 SS：0 件
	西大井：0 件	西大井：1 件	西大井：0 件

令和6年度事業報告書（錦海リハビリテーション病院 エリア）

1 令和6年度総括（成果、反省等を簡単に）

回復期リハビリテーション病棟の医療提供実績は下記の通り。

入院患者数：242 人、退院患者数：240 人、平均稼働病床数：43.2 床、病床稼働率：90.0%、平均在院日数：65.4 日、疾患別構成：脳血管疾患 62%・骨関節疾患 36%、廃用症候群 2%、入院時重症患者割合（基準 40%以上）：40.1%、入院時重症患者改善（4 点以上）割合（基準 30%以上）：46.3%、実績指数（基準：40 以上）：42.7、リハビリ提供実績（1 患者 1 日平均）：7.9 単位（2 時間 37 分）、全国学会にて 22 演題の発表業績。

2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) 回復期リハビリテーション入院料 1 の施設基準継続達成
- 2) 回復期リハビリテーション病棟協会第 47 回研究大会 in 米子 地域向け「プレ講演会」の開催
- 3) 新型コロナウイルス感染症等における院内感染防止対策
- 4) 仮想現実（VR）技術を応用したリハビリテーション「mediVR カグラ」の導入（mediVR 社製）

3 エリア目標の達成度合とその評価（戦略会議の資料等）

- 1) 回復期リハビリテーション料 1 の継続算定、在宅復帰率 80%以上
⇒継続算定の達成、在宅復帰率 82.3%の実績により達成
- 2) 新型コロナウイルス感染症における院内感染防止対策
⇒達成：地域の感染拡大状況やこれまで重ねた知見を踏まえ、院内感染対策委員会を中心に過不足ない感染対策対応を検討、その対応を講じることで院内感染の拡大を防ぐことができた。

4 入所系事業所（デイハウスは登録人数）の稼働率の推移（稼働率：小数点第 1 位）

事業所名	定員(人)	令和 6 年度(%)	令和 5 年度(%)	令和 4 年度(%)
錦海リハビリテーション病院	48	90.0%	90.1	89.7

5 各エリアの取り組み実績

年間行事一覧	和洋専門調理師によるスペシャルメニューの季節ごとの提供、ひな祭りコンサート等
BCP 等訓練実施状況	令和 6 年能登半島地震において、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）に協力し、当院スタッフである言語聴覚士と作業療法士の 2 名を R-スタッフ（JRAT Rapid Response Team Staff）として、地派遣した。報告会の様子は e ラーニングシステムにも格納して視聴環境も整えている。また、令和 7 年 1 月には、JRAT 代表 栗原正紀先生を招いての講演会も企画開催し、地域にも開放した。災害リハビリテーション支援の視点からも当院のみならず地域の防災強化に繋げる活動を継続している。

エリア内研修状況	・新規職員研修(他部署体験研修含む) ・院内 WEB 研修 (リハ医療関連、人権学習、医療安全、院内感染、医薬品、医療機器、個人情報保護等) ・回りハ研究大会 in 米子プレ講演会開催(地域関係者へも開放) ⇒ 1～4 回の開催実績 ・各部署内研修及び院外研修伝達講習会等 ・法人 e ラーニング研修の導入 ・外部機関 WEB 研修の活用 (日本リハビリテーション病院・施設協会、回復期リハビリテーション病棟協会)
エリア内会議、委員会活動	1. 運営会議(幹部会議)、2. 病床会議、3. 部門調整会議、4. 改善委員会、5. 倫理委員会、6. 院内感染防止対策委員会、7. 医療安全管理委員会、8. 転倒転落対策チームまくれん隊、9. 医療機器安全管理委員会、10. 褥瘡対策委員会、11. 褥瘡対策チーム会、12. NST 委員会、13. 栄養ケア委員会、14. 薬事委員会、15. 医療ガス安全管理委員会、16. 職員衛生委員会、17. 診療録管理委員会、18. 病院機能評価委員会、19. 病院機能評価チーム会、20. 虐待防止委員会、21. 身体抑制最小化委員会
委員会活動等の成果・実績・反省	前回受審以後も途切れることなく病院機能評価委員会チーム会による機能評価を活用した業務改善活動を継続している(次年度、令和 7 年度更新受審予定)。加えて改善委員会によって部署横断的な課題改善にも常に努めている。

6 人財状況

外部研修等講師派遣実績	・濱崎喬之(言語聴覚士) 言語聴覚士から見たことばの発達 令和 6 年度主任児童委員連絡会、主任児童委員連絡会主任、2024.4.4、米子市 ・木嶋恵美(管理栄養士) 食べる機能と食形態・経口摂取可否のミスマッチ 回復期～生活期では 第 16 回山陰摂食嚥下研究会 山陰摂食嚥下研究会主催 2024.5.12、米子市 ・平野正樹(作業療法・リハビリ技術部主任) 鳥取 JRAT について 震災対応で OT としてできること ・北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
-------------	---

	鳥取 JRAT について 実際の活動内容の報告 ・北山朋宏（作業療法士・リハビリ技術部課長） 生涯教育制度 2020 の概要と解説 令和 6 年度鳥取県作業療法士会総会後研修会、鳥取県作業療法士会主催、2024.5.19、オンライン ・藤井春美（看護師・副院長） 人材管理 I 「人材育成の基礎知識」 令和 6 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル、鳥取県看護協会主催、2024.6.6、米子市 ・濱崎喬之（言語聴覚士） 児童生徒の特性に応じた指導の実際について 令和 6 年度第 3 回西部通級担当者及び LD 等専門員の研修会、鳥取県特別支援教育研究会、2024.6.10、米子市 ・畠山亮太（言語聴覚士） 失語症と合併しやすい障害について／福祉制度概論 ・田村篤人（言語聴覚士） コミュニケーション方法の選択法 令和 6 年度鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修 アドバンスコース、鳥取県主催、2024.7.14、米子市 ・田村篤人（言語聴覚士） 失語症概論 令和 6 年度 鳥取県失語症者向け意思疎通支援者養成研修、鳥取県主催、2024.7.21、鳥取市 ・川上紘司（作業療法士） 作業療法生涯教育概論 ・北山朋宏（作業療法士・リハビリ技術部課長） 職業倫理 令和 6 年度前期現職者共通研修会、鳥取県作業療法士会主催、2024.7.27、琴浦町 ・角田賢（医師・病院長） 回復期に必要な ICF とニーズの知識 第 172 回全職種研修（レギュラーコース）、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2024.8.17 オンライン ・濱崎喬之（言語聴覚士） 吃音支援の基礎・基本 令和 6 年度第 1 回鳥取県通級指導担当者言語部会研修会、鳥取県特別支援教育研究会主催、2024.8.23、米子市
--	---

	・濱崎喬之（言語聴覚士） ことばの発達を促す声かけの方法 キッズタウン子育て支援センター育児講座、キッズタウンかみごとう子育て支援センター主催、2024.8.29、米子市 ・神坂綾（社会福祉士） 実践報告「ソーシャルワーカーの人材育成 再考」 2024 年度第 1 回 保健医療委員会研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2024.9.7、米子市 ・松原岳洋、永岡直充（理学療法士） 失語症を呈する対象者に対する身体介助 失語症者向け意思疎通支援者養成事業、鳥取県言語聴覚士会主催、2024.9.29 ・上村順一（理学療法士） 水分補給のはなしと全身体操 アクティブシニア健康教室、2024.9.19、米子市 ・角田賢（医師・病院長） 回復期リハビリテーション病棟入院患者の全身管理・重症者管理のポイント 2024 年度第 29 回回復期リハビリテーション病棟医師研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2024.10.12、オンライン ・上村順一（理学療法士） 血圧のはなしと全身体操 アクティブシニア健康教室、2024.10.16、米子市 ・佐藤勝之（言語聴覚士） 地域における高齢難聴者の支援体制について 令和 6 年度難聴者等向けコミュニケーション学習会、西部ろうあ仲間サロン会主催、2024.10.26、米子市 ・木嶋恵美（管理栄養士） 在宅における栄養管理の実践 在宅医療推進のための看護師育成支援事業 III 訪問看護能力強化コース、鳥取大学医学部附属病院主催、2024.10.31、米子市 ・岩田久義（言語聴覚士・リハビリ技術部主任） ベテラン ST が教える多職種連携(摂食嚥下)回復期の場合 山陰言語聴覚士協会 新人研修会、山陰言語聴覚士協会、2024.11.2-3、松江市 ・上村順一（理学療法士） 運動効果と健康増進のはなしと全身体操
--	---

	アクティブシニア健康教室、2024.11.21、米子市 ・平野正樹（作業療法士・リハビリ技術部主任）、川上紘司（作業療法士） コミュニケーション支援技法Ⅱ実習等 失語症者向け意思疎通支援者養成講座 アドバンスコース、山陰言語聴覚士協会主催、2024.11.24、米子市 ・星山望（作業療法士） 在宅でのリハビリテーション 在宅医療推進のための看護師育成支援事業、鳥取大学医学部附属病院主催、2024.11.25、米子市 ・岩田久義（言語聴覚士・リハビリ技術部主任） JRAT の紹介（R-スタッフとしての能登半島地震への派遣を交えて） 災害時に対応できる言語聴覚士となるために、山陰言語聴覚士協会主催、2024.12.1、米子市 ・門脇康浩（言語聴覚士） 島根県言語聴覚士会の取組み 令和6年度出雲市議会地域医療福祉協議会研修会、出雲市議会地域医療福祉協議会主催、2024.12.13、出雲市 ・上村順一（理学療法士） 寒さとかからだ、防寒対策のはなしと全身体操 アクティブシニア健康教室、2024.12.19、米子市 ・川上紘司（作業療法士） 臨床実習における管理・運営 厚生労働省指定臨床実習指導者講習会（鳥取県講習会）、鳥取県作業療法士会主催、2025.1.11-12、米子市 ・上村順一（理学療法士） 膝関節の痛みと対策のはなしと全身体操 アクティブシニア健康教室、2025.1.16、米子市 ・吉田倫子（作業療法士） 脳損傷後の自動車運転再開支援 脳損傷後の自動車運転再開支援、山陰言語聴覚士協会主催、2025.1.18、オンライン ・佐藤勝之（言語聴覚士） 聞こえのフレイルについて 令和6年度第2回尚徳地域 地域ケアカフェ、米子市尚徳地域包括支援センター主催、2025.1.30、米子市 ・角田賢（医師・病院長）
--	--

	回復期リハビリテーション－住み慣れた家に帰るために－ 『脳卒中』の最新治療と予防、松江市医師会主催、2025.2.9、松江市 ・原田あゆ美（作業療法士） 失語症患者の運転支援 運転と作業療法研修会、鳥取県作業療法士会主催、2025.2.15、オンライン ・平野正樹（作業療法士・リハビリ技術部主任） 災害支援について 令和6年度地域包括ケアシステム委員会人材育成研修、鳥取県作業療法士会主催、2025.2.22、オンライン ・三好綾（言語聴覚士） オーラルフレイルについて～いつまでも美味しく食べるために～ リハビリテーション専門職派遣事業、南部箕蚊屋広域連合主催、2025.3.12、日吉津村 ・佐藤勝之（言語聴覚士） “きこえ”をよくして、人生100年時代を楽しむために 境港市市民公開講座、境港市主催、2025.3.16、境港市
外部役職就任状況	・（一社）回復期リハビリテーション病棟協会 理事：角田賢 病院長 ・（一社）日本リハビリテーション病院・施設協会 理事：角田賢 病院長 ・（一社）日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員：岩田久義 主任 ・日本リハビリテーション医学会中国四国地方会幹事：井後雅之名誉院長 ・（一社）日本言語聴覚士協会 代議員：岩田久義 主任 ・（一社）日本地域理学療法学会 評議員：今田健 次長 ・（一社）回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会 in 米子 大会長：角田賢 病院長 ・（一社）回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会 in 米子 実行委員長：竹内茂伸 副院長 ・（一社）回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会 in 米子 事務局長：善波吉人 事務長 ・（一社）日本作業療法士協会 代議員：北山朋宏 課長 ・（一社）日本作業療法士協会 教育部部員：北山朋宏 課長 ・厚生労働省指定臨床実習指導者講習会（作業療法士）世話人：北山朋宏 課長

	・厚生労働省指定臨床実習指導者講習会(作業療法士)世話人：平野正樹 主任 ・厚生労働省指定臨床実習指導者講習会(作業療法士)世話人：川上紘司 ・(一社)山陰言語聴覚士協会 会長：竹内茂伸 副院長 ・(一社)山陰言語聴覚士協会 理事：岩田久義 主任 ・(一社)山陰言語聴覚士協会 理事：田村篤人 ・(一社)山陰言語聴覚士協会 理事：門脇康浩 ・(一社)山陰言語聴覚士協会 理事：佐藤勝之 ・(一社)鳥取県作業療法士会 副会長：北山朋宏 課長 ・(一社)鳥取県作業療法士会 理事：平野正樹 主任 ・(一社)鳥取県作業療法士会 理事：川上紘司 ・(一社)鳥取県社会福祉士会 理事：神坂綾 ・鳥取県看護連盟 幹事：藤井春美 副院長 ・鳥取県病院協会西部支部事務長会 会長：善波吉人 事務長 ・鳥取県災害リハビリテーション支援協会(鳥取 JRAT) 代表：角田賢 病院長 ・鳥取県災害リハビリテーション支援協会(鳥取 JRAT) 事務局長：善波吉人 事務長 ・鳥取県災害リハビリテーション支援協会(鳥取 JRAT) 運営委員：竹内茂伸 副院長 ・鳥取県災害リハビリテーション支援協会(鳥取 JRAT) 運営委員：岩田久義 主任 ・鳥取県リハビリテーション専門職連絡協議会(POST) 理事：川上紘司 ・鳥取県西部脳卒中シームレス会議 世話人：井後雅之 名誉院長 ・鳥取県西部脳卒中シームレス会議 世話人：善波吉人 事務長 ・鳥取県失語症者支援センター センター長：田村篤人 ・松江市失語症者支援センター センター長：門脇康浩 ・しまねリハビリテーションネットワーク 相談役：門脇康浩 ・米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会委員：田村篤人 ・米子市地域密着型サービス運営委員会 委員：田村篤人 ・鳥取方式フレイル予防対策検討会 委員：田村篤人 ・聴覚障がい児支援体制整備事業 委員：田村篤人 ・(公財)鳥取県介護労働安定センター 相談員：今田健 次長 ・米子市フレイル予防協議会 委員：今田健 次長
--	--

	・山陰摂食嚥下研究会 世話人：竹内茂伸 副院長 ・鳥取大学医学部臨床教授：井後雅之 名誉院長 ・鳥取大学医学部附属病院連携診療教授：井後雅之 名誉院長 ・鳥取大学医学部附属病院連携診療教授：角田賢 病院長 ・鳥取大学医学部 臨床教授：藤井春美 副院長 ・広島大学医学部 臨床教授：今田健 次長 ・広島大学医学部 臨床教授：北山朋宏 課長 ・広島大学医学部 臨床教授：平野正樹 主任 ・広島大学医学部 臨床教授：吉田倫子 ・広島大学医学部 臨床教授：星山望 ・広島大学医学部 臨床教授：三島将太 ・広島大学医学部 臨床教授：川上紘司 ・広島大学医学部 臨床教授：桐原千賀子 ・広島大学医学部 臨床教授：生田陽介 主任 ・広島大学医学部 臨床教授：遠藤美紀 主任 ・広島大学医学部 臨床准教授：永岡直充 ・広島大学医学部 臨床准教授：足立睦未 副主任 ・広島大学医学部 臨床准教授：原田あゆ美 ・広島大学医学部 臨床准教授：仙田春菜 ・広島大学医学部 臨床准教授：新和なつみ ・第7回日本理学療法管理学会学術大会 査読員：今田健 次長 ・第11回日本地域理学療法学会学術大会 査読員：今田健 次長 ・World Physiotherapy Congress（世界理学療法連盟学会）2025 査読員：今田健 次長 ・（一社）日本理学療法管理学会ガイドライン作成委員会 査読員：今田健 次長 ・第11回日本予防理学療法学会学術大会 査読員：遠藤美紀 主任 ・第11回日本予防理学療法学会学術大会 査読員：足立睦美 副主任 ・第11回日本地域理学療法学会学術大会 査読員：足立睦未 副主任 ・第11回日本予防理学療法学会学術大会 査読員：今田健 次長 ・第13回日本支援工学理学療法学会学術大会 査読員：今田健 次長 ・第10回日本精神・心理領域理学療法研究会学術大会 査読員：今田健 次長 ・（一社）鳥取県作業療法士会 査読員：北山朋宏 課長 ・（一社）鳥取県作業療法士会 査読員：平野正樹 主任
--	---

	・第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 群馬 査読員：平野正樹 主任 ・（一社）鳥取県作業療法士会 査読員：川上紘司 ・（一社）鳥取県作業療法士会 査読員：山本未来
外部表彰受賞状況	（一社）鳥取県理学療法士会 設立50周年記念式典 感謝状 善波吉人 事務長（社会福祉士）

7 地域貢献実績（保育園含む）

実習受け入れ実績 延人数 595人	鳥取大学、広島大学、広島国際大学、兵庫医科大学、YMCA 米子医療福祉専門学校、鳥取市医療看護専門学校、松江総合医療専門学校、リハビリテーションカレッジ島根、関西医科大学専門学校、姫路医療専門学校、日本リハビリテーション専門学校
見学受け入れ実績 実人数 307人	姫路中央病院（兵庫県）、やわたメディカルセンター（石川県）、長谷川記念病院（岡山県）、米子東病院（米子市）、リハビリテーションカレッジ島根（島根県）、YMCA 米子医療福祉専門学校（米子市）、入院希望患者さんのご家族など
地域発信活動実績（講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く）	【主な当院主催講演会】 回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会 in 米子「プレ講演会その2」2024.6.8 米子市 ・医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 理事長 岡本隆嗣 先生（回復期リハビリテーション病棟協会 常任理事）「回復期リハビリテーションにおける ICF の活用とチームアプローチ」 回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会 in 米子「プレ講演会その3」2024.11.22 米子市 ・東京湾岸リハビリテーション病院 病院長 近藤国嗣 先生（回復期リハビリテーション病棟協会 理事）「回復期リハビリテーション医療のスタンダード（標準）について考えるー脳卒中を中心にー」 回復期リハビリテーション病棟協会第47回研究大会 in 米子「プレ講演会その4」2025.1.10 米子市 ・長崎リハビリテーション病院 理事長 栗原正紀 先生（日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）代表理事）「令和6年能登半島地震災害支援から見えてきたこと～これから期待される JRAT の進化・深化～」

	【専門雑誌・書籍掲載】 ・角田賢（医師・病院長） リハビリ部門リレー連載27 2024年診療報酬改定におけるリハビリテーション病院の経営戦略 大逆風の回復期リハ病棟、どうやって生き残る -第1回- Visionと戦略 Vol.244 2024年6月号、保健・医療・福祉サービス研究会 2024.5 ・角田賢（医師・病院長） リハビリ部門リレー連載28 2024年診療報酬改定におけるリハビリテーション病院の経営戦略 大逆風の回復期リハ病棟、どうやって生き残る -第2回- Visionと戦略 Vol.245 2024年7月号、保健・医療・福祉サービス研究会 2024.6 ・大森恵子（看護師） チームアプローチによる ADL 向上：看護師の重要な役割と他職種との連携 リハビリナース第17巻4号、メディカ出版 2024.7.10 【学会発表】 第25回日本言語聴覚学会 in 兵庫・神戸、2024.6.21-22、兵庫県 ・岩田久義（言語聴覚士・リハビリ技術部主任） JRAT R-スタッフとしての活動経験から ・松橋菜実子（言語聴覚士） 地域における高齢難聴者の支援体制構築に向けて(第1報)～当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における聞こえの実態と今後の課題～ 第56回中国四国リハビリテーション医学研究会、2024.7.15、島根県 ・永岡直充（理学療法士） 当院に入院した脳血管疾患を持つ症例の%努力性肺活量と日常生活動作との関連性 ・足立睦未（理学療法士・リハビリ技術部副主任） 複数回転倒件数からみた入院時サルコペニア評価における細分化の重要性
--	---

	第 22 回日本臨床医療福祉学会、2024.9.20-21、京都府 ・杉原健太郎（理学療法士） 通所リハビリテーション利用者数の変動状況からみた事業所の運営課題 ・仙田春菜（作業療法士） 錦海リハビリテーション病院における運転再開に向けた取り組みについて ・西田萌音（言語聴覚士） 在宅生活に向けて、家族とのコミュニケーション環境の調整が効果的であった一症例 第 48 回全国デイ・ケア研究大会 2024in 札幌・北海道、2024.9.20-21、北海道 ・新和なつみ（作業療法士） 課題指向型アプローチの関わりで一人での調理動作が再獲得できた一事例 第 58 回日本作業療学会、2024.11.9-10、北海道 ・平野正樹（作業療法士・リハビリ技術部主任） 回復期リハビリテーション病院退院後のオンラインによる追跡調査～事例の調査から得られたこと～ ・竹内勇登（作業療法士） ReoGo-J の適応範囲拡大の試み～病棟練習にて ReoGo-J を実施する取り組み～ リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024、2024.10.3-4、山梨県 ・門脇康浩（言語聴覚士） 訪問リハの利用者都合の休みを減らす取り組みについて ・横木貴史（理学療法士） 在宅復帰の目安となる回復期病棟退院時の MNA-SF スコア ・山本未来（作業療法士） 麻痺手の使用を誘導する環境設定のデザインが失語症例において有効だった一例 ・川上紘司（作業療法士） 当院の訪問リハと通所リハを併用し、回復期病棟退院時の生活動作レベルから活動範囲の拡大が認められた一症例 鳥取県福祉研究学会 第 18 回研究発表会、2025.02.22、倉吉市 ・渡邊真紀（言語聴覚士） キッズタウンからふるにおける保護者支援の取り組み
--	--

	回復期リハビリテーション病棟協会第 45 回研究大会 in 札幌、2025.2.21-22、北海道 ・佐藤勝之（言語聴覚士） 回復期リハ病院で求められる難聴の支援～境港市の取組みと当院入院患者のきこえの問題についての調査を踏まえて～ ・畠山亮太（言語聴覚士） 失語症者の自動車運転再開に向けた意思疎通支援～ST の自動車学校への同行が功を奏した一例～ ・杉原健太郎（理学療法士） 回復期病棟退院後に通所リハビリテーション利用に至った利用者に対する，スマートウォッチを用いたサービス利用時間以外の生活の把握 ・澤田昌樹（理学療法士） 麻痺側下肢荷重率と Berg Balance Scale は脳卒中片麻痺を呈した症例の歩行自立に至るまでの日数と関連する ・原田あゆ美（作業療法士） クライアントの「できそう」を引き出すために運動主体感に着目した 1 症例 ・山本未来（作業療法士） 退院後も継続して使用される自助具の開発に必要な要素の検討-かぎ針編み用自助具の作成を通して- ・坂根嘉奈子（看護師・看護部主任） 脳卒中再発予防指導の現状と課題
--	--

8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル 3 以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル 3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	0 件
	レベル 4	事故により、障がいが残った場合	0 件
	レベル 5	事故が死因となった場合	0 件
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況 (保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載)		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	件	件	件



社会福祉法人 こうほうえん

令和 7 年 6 月 10 日

社会福祉法人こうほうえん

〒684-0063 鳥取県境港市誠道町 2083 番地

法人本部事務局

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳 1400

TEL (0859) 24-3111 FAX (0859) 24-3113

ユニバーサルデザインフォントを使用しています